

第7章

ハビヤリマナ体制について考察するための資料

武内 進一

要約：

1994年にルワンダで起こった大虐殺のメカニズムを考えるために、ハビヤリマナ体制（1973～94年）の分析は不可欠である。しかし、ハビヤリマナ期の政治については先行研究が少なく、虐殺との関連についてもほとんど論じられていない。本資料は1994年のルワンダ虐殺に関連する人名録であり、虐殺時の役割やハビヤリマナ政権期の地位などの情報が記載されている。

キーワード：

ルワンダ、ジェノサイド、政治、ハビヤリマナ

はじめに

ハビヤリマナ（Habyarimana Juvénal）政権（1973～94年）について検討しようとするれば、厳しい資料的制約に直面する。1994年4月6日の搭乗機撃墜事件とそれに端を発する大規模な虐殺が世界の耳目を集めるまで、ハビヤリマナ政権のルワンダに対する関心は低かった。そのため1990年10月の内戦勃発以降の政治過程は別にして、ハビヤリマナの統治期に関する先行研究は少なく、とりわけその統治システムに関する研究はほとんど存在しない。1990年10月か

ら 94 年の虐殺に至るプロセスについては、代表的な研究だけでも、Reyntjens [1994; 1995a]、Prunier [1995]、Bertrand [2000]、Melvern [2004] など多数を挙げることができるが、ハビヤリマナが政権の座に着いた 1973 年から 90 年の内戦勃発について一定の分析がなされている著作は、Marysse et al. [1994]、Nkunzumwami [1996]、Gasana [2002] などわずかなものに過ぎず、しかも統治システムを直接考察したものではない。

ハビヤリマナ体制は、とりわけその後のジェノサイドとの関連で問題となる。わずか 100 日足らずの間に 80 万人とも、それ以上ともいわれる膨大な数の人々が虐殺されたこの事件は、発生から 10 年以上が経過した今日でも、なお記憶に新しい。この常軌を逸した殺戮に、ハビヤリマナ期の政治のあり方はどのように関係しているのだろうか。ハビヤリマナ体制の何がジェノサイドを準備したのだろうか。こうした観点から、ハビヤリマナという統治者とその統治体制の性格を問うことは、すぐれてアクチュアルな意義を有するといえる。

この問題視角において、ハビヤリマナ体制をナチスドイツと同様の全体主義だと捉える見解がある(Prunier[1995]、Gourevitch[1998]、Verwimp[2003; 2005])。大衆動員を全体主義の特徴と見なし、ルワンダの虐殺で大衆が大規模に動員されたことから、ハビヤリマナ政権を全体主義とみなすのだが、ナチスドイツやスターリン期のソ連と比べたとき、ハビヤリマナ期のルワンダが、イデオロギー、政党の動員力、経済的基盤など多くの面で著しく異なることも事実である。

ジェノサイドとの関連でハビヤリマナ体制を論じるためには、ジェノサイドがハビヤリマナの暗殺を契機に勃発し、彼の不在のなかで遂行された事実に留意する必要がある。この問題視角からハビヤリマナ体制を論じるために、ハビヤリマナ個人に着目することは当然必要だとしても、それだけでは十分ではない。体制の構造的な性格が明らかにされ、彼が不在であったにもかかわらず遂行されたジェノサイドのメカニズムが説明されなければならないのである。ジェノサイドのメカニズムは、そこでどのような立場の人物がどのような役割を果たしたか、という事実から解明していくしかない。それをハビヤリマナ体制との関連で問うためには、ジェノサイドのなかで誰がどのような役割を果たした

のかという問題と、その人物がハビャリマナ体制においてどのような役割を果たしていたのかという問題の双方を検討する必要がある。ハビャリマナ体制を全体主義だと決めつける前に、事実関係からジェノサイドのメカニズムを帰納的に解明し、そのアクターとハビャリマナ体制とを結びつける関係性を発見する努力が求められている。

以上の問題意識に基づいて、本稿ではハビャリマナ体制について考察するために行った、二つの基礎作業を提示する。本稿の大部分を占める第1の資料は、1994年4月以降の虐殺に関連する重要人物の人名録である。ルワンダの大虐殺は世界的に多くの関心を集め、またルワンダ国際刑事裁判所（ICTR）が公判記録を公開していることから、それに関与した人々について比較的豊富な資料が得られる。ここから、どのような人物が虐殺遂行に重要な役割を果たしたか、そして彼らがハビャリマナ政権期にどのような立場にあったのかをある程度知ることができる。それを整理したものがこの人名録である。作成にあたっては、African Rights（以下ARと略記）やHuman Rights Watch（以下HRWと略記）など人権NGOの報告書（特に、AR [1995a]とHRW [1999]）や、ルワンダ国際刑事裁判所（ICTR）の起訴状や判決文などを参考とし、適宜研究書の記述に依拠した。ICTRの資料から得た情報については末尾に「(ICTR)」と記し、二次資料についてもなるべく出典を記すようにした。何も書いていない場合は、AR [1995a]かHRW [1999]から引用したものである。この2つの資料には索引が付いており、原典に当たることは容易である。

第2の資料は、第1の人名録に比べてずっと小規模だが、「アカズ」(Akazu)に関するものである。第2節の冒頭に記したとおり、「アカズ」はハビャリマナ政権の中枢を占めた権力エリート・グループの呼称である。この資料では、幾つかの先行研究を整理して、誰がそこに属すると見なされたかを整理した。

第1節 ルワンダ虐殺関連人名録

Akayesu Jean-Paul

1953年に、ギタラマ州、タバ(Taba)コミューン、ムレヘ(Murehe)セクターで生まれ、育った。タバでは陸上選手で、ローカルなサッカーチームにも所属。1978年、10年来の知り合いであったタバの女性と結婚。現在も婚姻関係にあり、5人の子どもがいる。ブルグメストル(Bourgmestre)に任命される以前は、タバ・コミューンで教師を務め、後に学校査察官(school inspector)に昇進。職責上、タバ・コミューンの教育を監視する任務を負い、教師のトップの地位にあった。時には教師の代理で教え、生徒に人気があった。1991年以降、政治活動を活発に行い、同年7月1日には、複数政党制への移行に伴って、MDRの創設者の一人となった。MDRは、旧来のMDR-PARMEHUTUの延長ではなく、MRNDに対抗することを政治目標とし、MRNDの失政を攻撃した。その後、MDRのタバ・コミューン支部長に選出される。個人的には、道徳の高い人物として地域社会で信頼を得ていた。そのため、1993年のブルグメストルの選挙においては、MDRを始め、コミューンの代表や宗教指導者から候補者にふさわしいと認定され、こうしたグループに押されて立候補した。1993年4月、4人の候補者の中からブルグメストルに選出された。その後彼は、1993年4月から1994年6月まで、タバ・コミューンのブルグメストルを務めた。タバ・コミューンの虐殺に関与した罪で無期懲役。(ICTR)

Akingeneye Alphonsine

Higaniro Alphonseの妻。Electrogazに勤務。飛行機墜落により大統領と一緒に暗殺された、大統領付き医師の娘。

AMASASU

ニャルワンダ語でAMASASUとは「弾丸」のこと。"Alliance des militaires agacés par les séculaires actes sournois des Unaristes"の略称とも。1993年1月にアルーシ

ャ協定交渉プロセスへの反対を表明した軍内急進派グループ(Reyntjens[1995a: 58])

Bagambiki Emmanuel

1948年3月8日チャンググ州生まれ。1992年7月4日～1994年7月17日の間、チャンググ(Cyangugu)州知事を務める。MRNDの党员。起訴されたが無罪判決。(ICTR) / 元ルワンダ国軍諜報部長。前キガリ(Kigali)知事。

Bagaragaza Michel

紅茶流通公社(OCTR-Thé)の経営者。ハビヤリマナー族、特に妻のアガトと関係が深い(HRW [1999: 200])

Bagilishema Ignace

1955年5月21日、キブエ州マバンザ(Mabanza)コミューン、ルベンゲラ(Rubengera)セクター生まれ。高等軍事学校(Ecole militaire supérieure)に2年だけ通った後、1978～80年に青年省で公務員として働く。1980年2月8日、25歳でマバンザ(Mabanza)コミューンのブルグメストルに任命され、1994年7月に亡命するまでその職を務める。既婚。6人の子の父親。無罪判決。ただし、少数の反対意見も併記。(ICTR)

Bagosora Théneeste (Colonel)

1941年8月16日ギチエ(Giciye)コミューン(ギセニイ州)で生まれる。7人の子どもがいる。1964年、キガリの士官学校(Ecole des officiers)を卒業し、少尉(Second lieutenant)となる。後に、フランス戦争学校で上級軍事教練修了証書を取得。その後、キガリの軍事上級学校のナンバー2に任命され、次にカノンベ軍事キャンプの司令官に任命された。1992年6月、国防省の官房長に任命される。1993年9月23日に軍から退役したが、国防省官房長の職には1994年7月に国外に脱出するまで留まった。(ICTR) / 1994年4月6日には国防大

臣のビジマナ (A. Bizimana) がカメルーン出張中で、その間に彼が差配した。4月7日に国防省から出された戒厳令は、彼の指示によるという (Melvern [2004: 137] その他)。虐殺の計画、遂行の中心人物と目されている。

Baransaritse (Colonel)

軍医。カノンベ・バラックの責任者。CDR (Coalition pour la défense de la République) と深いつながり。

Bararengana Séraphin (Dr.) / Melvern [2004: 160] では Baraengana

ハビヤリマナ大統領のキョウダイ。内科医。アカズ。ブタレ近郊のブイエ (Buye) に住んでおり、大統領警護隊が警備を担当していた。1994年4月6日以降は、トゥンバ (Tumba) 地区の自宅に大統領警護隊が駐留。 (HRW [1999: 435]) / 4月7日午後、ガチンジ (M. Gatsinzi) やシンディクブワボ (T. Sindikubwabo) らとともに車列を汲んでブタレからキガリへ到着 (Melvern [2004: 160])。

Baravuga Laurent

ブタレのトゥンバ地区に住んでいた CDR の指導者。ガタバジ暗殺後、PSD 支持者の脅迫を受けて避難した。

Barayagwiza Jean-Bosco

1950年、ギセニイ州ムタラ (Mutara) コミューン生まれ。CDR の創設メンバーであり、そのギセニイ支部長。また、RTLTM (Radio – Télévision libre des milles collines) の執行理事会 (comité d'initiative) メンバーで、その幹部。以前は、MRND のメンバーで、外務省政治局長であった。バゴソラ大佐やシンディクブワボ大統領など、権力中枢の人物と深く結びついた、重要かつ影響力の大きい人物。 (ICTR) / CDR の主要なイデオログで、彼のスピーチは RTLTM でもしばしば流れた。4月6日以降は、ビチャムンパカ (Bicumumpaka) 外相とともに

外交努力し、フランスや国連本部を訪問。ゼロ・ネットワーク (Réseau Zero) のメンバー (Melvern [2004: 32] 他)。

Baril, Maurice (General)

国連事務総長の軍事アドバイザー。リザ (Iqbal Riza) とともに 1994 年 5 月 22 ~ 27 日にルワンダを訪問、それに基づいて安保理に対してジェノサイドと認める報告書が書かれる。

Barril, Paul

フランス人。ハビヤリマナ大統領夫人のアドバイザー。キャリアの憲兵隊員で、1980 年代にはフランスの対テロリストユニット GIGN の長を務める。当時、GIGN は大統領府にあり、友人でメンターであるプルトー (Maj. Christian Prouteau) がそれを率いていた。1993 年には、ンダダエ大統領 (ブルンディ) の安全保障アドバイザーを務める (Prunier [1995: 216])

Basabose Abel

ソング(Songa)の ISAR 畜産試験場での虐殺に関与。退役軍人(AR [1995a: 358])

Bashamiki Etienne

PSD (Parti social démocrate) の全国的指導者。ンサビマナ (Nsabimana) をブタレ新知事に推す。

Batakanwa Célestin

Centre of Integrated Rural Artisanal Education (CERAI) の理事長。ブタレ州ニャキズのブルグメストルであったンタガンズワ (Ntaganzwa) と深い関係。

Batware Théophile

ンゴマ (Ngoma) コミューンの治安委員会メンバー。ンテジマナ (Laurent

Ntezimana)とともに穏健派として、急進派の主張をブロックする(委員会はコンセンサス原則だった)。

Bavugamenshi Innocent (Col.)

憲兵隊(gendarme)の VIP 保護責任者。ニャキズの有力者で元ブルンディ難民。ブルグメストルのンタガンズワと関係深い。マラバ(Maraba)のバプチスト教会青年部長。バーも経営。難民キャンプのチーフとして、難民と政府を繋ぐ公式のポストに就く。MDR-Power のセクター支部長となる。

Bemeriki Valérie

RTLTM のアナウンサー。

Bicamumpaka Evariste

ブタレ州の副知事。4月15日にマラバに派遣される。(HRW [1999: 450])

Bicumumpaka Jérôme

1957年、ルヘンゲリ州ルホンド(Ruhondo) コミューン、ムコノ(Mukono) セクター生まれ。1994年4月9日から7月半ばまで、外務・対外協力相を務める。MDR のメンバー。(ICTR)

Bikindi Simon

1954年9月28日、ギセニイ州ルウェレ(Rwerere) コミューン生まれ。著名な歌手、作曲家、またパフォーマンス・グループである”Irindiro Ballet”のリーダーを務める。青年スポーツ省の職員であり、また MRND のメンバーでもあった。(ICTR) / MRND による反トウチキャンペーンで重要な役割を果たす。インテラハムウェや RTLTM と関係が深く、煽動のために歌が重要な役割を果たす。

Biniga Damien

ブタレ州ムニニ (Munini) の副知事 (sous-prefet)。 インテラハムウェとともに虐殺に関与。 チャヒンダ (Cyahinda) 教会虐殺の際に、市民に教会の周りを包囲させる。

Birikunzira (Captain)

憲兵隊所属。 憲兵隊ではニャビシンドウ (Nyabisindu) 地区ニャンザ (Nyanza) の責任者。 ンタヤゾ (Ntyazo) の虐殺に派兵。(AR [2000a: 61-63])

Bisengimana Paul

1994 年 4 月当時、キガリ・ルーラル州ギコロ (Gikoro) コミューンのブルグメストル。 1991 ~ 94 年、セマンザ (Semanza Laurent) やルガンバララ (Rugambarara Juvénal) と近い関係にあった。 セマンザは、20 年以上ビチュンビ (Bicumbi) コミューンのブルグメストルを務め、キガリ・ルーラル地域の MRND 支部長であった。 ルガンバララは、ビチュンビのブルグメストルとしてセマンザの後任となった人物である。 ブルグメストルとして、コンセイエ、コミュニティ警察、その他政府機構に対して影響力を行使した。 起訴状では、キガリ・ルーラル州ギコロ・コミュニティにおける虐殺に重要な役割を果たしたとされる。(ICTR)

Bizimana Augustin (Colonel) (Major-General)

1954 年、ビュンバ州ギトウザ (Gituza) コミューン生まれ。 1993 年 7 月 18 日に組閣された第 3 次複数政党内閣で国防相を務め、94 年 4 月に成立した暫定政権でも国防相に留任。 未逮捕。(ICTR) / もと農業技師。 1990 年 10 月当時ビュンバ州知事の職にあり、民兵を養成。 93 年半ばまで知事を務めた後、国防相となる。 MRND 所属。 94 年 4 月 6 日にはカメルーンに出張中。 / 長くルヘンゲリ地方軍司令官を務める。(AR [1995a: 105])

Bizimana Jean-Damascène

外務省の事務局長 (secretary-General)。 ゼロ・ネットワーク (Réseau Zéro) の

メンバー（文民）。ルワンダの国連大使（Melvern [2004: 32, 178]）。

Bizimungu Augustin (Major-General)

1952年8月28日、ビュンバ州ムカランジエ（Mukaranje）コミューン、ムギナ（Mugina）セクター、ニヤンゲ（Nyange）セル生まれ。1994年4月16日以降、ルワンダ軍参謀長を務める。軍参謀長任命と同時に Major-General に昇進。それ以前は、ルヘンゲリ州軍事作戦司令官を務めた。（ICTR）/ 前軍参謀長のンサビマナ（Maj.-Gen. Nsabimana Déogratias）が大統領機撃墜事件で死亡すると、穏健派のガチンジ（Col. Gatsinzi Marcel）が参謀長となるが、4月16日に彼に代わって参謀長に就任。総司令官として、虐殺時の軍および大統領警護隊の活動に責任を有する。/ 急進派で、1993年1月のバゴグウェ（Bagogwe）虐殺に参加した北部戦線の司令官だった。（Prunier [1995: 229]）/ ゼロ・ネットワーク（Réseau Zéro）メンバーの軍人（Melvern [2004: 32]）。

Bizimungu Casimir (Dr.)

1951年、ルヘンゲリ州ニヤムガリ（Nyamugari）コミューン生まれ。1994年4月9日から7月半ばまで、暫定政権の保健相を務める。医師で、ブタレ大学病院の公共衛生部長を務めた。1989年1月15日、1990年7月9日発足のMRND内閣、および1991年2月4日に発足した最初の複数政党内閣で外相を務め、さらに1987年1月5日発足の内閣、1992年4月16日発足の第2次複数政党内閣、1993年7月18日発足の第3次複数政党内閣、94年4月発足の暫定内閣では保健相だった。MRNDの中央委員。（ICTR）/ ジェノサイドのイデオロギー面の指導者といわれる。（Prunier [1995: 239]）/ ゼロ・ネットワーク（Réseau Zéro）メンバーの文民（Melvern [2004: 32]）。

Bizimungu Pasteur

RPF 政権下、1994年7月21日～2000年3月まで大統領を務める。元ビジネスマン。1990年8月にウガンダに逃亡し RPF に加わる。2002年に違法な政治活

動を行った容疑で逮捕され、2004年には懲役15年の実刑判決が下った。

Bruguère, Jean-Louis

フランスの予審判事。2004年1月にハビャリマナ大統領搭乗機撃墜事件はRPFによるものだとの報告書を提出。(*Le Monde*, 2004年3月10日)

Buchibaruta

1994年当時、ギコンゴロの知事。MRNDの支持派。

Bucyana Martin

CDRの代表。CDRの中心は北部人だが、彼は南部出身。北部人中心の政党色を薄めるために起用された。1994年2月22日、前日にPSDのガタバジ(Gatabazi)が暗殺されたことの報復として、ブタレで白昼にリンチされ殺害される (Melvern [2004: 52]) 。

Bushishi Mathias

ブタレ州の検察官(public prosecutor)。1994年4月15日にマラバに派遣される。ルベンゲリ出身。4月29日、ンゴマ(Ngoma)教会に避難民がいることを軍に伝え、虐殺のきっかけを作る (HRW [1999: 450, 491]) 。

Dusabe Geoffrey

ニャキズの有力者。学校査察官であった。学校査察官は、教師を査察し、給料を分配するために、強い影響力を持つ。ブルグメストルのンタガンズワ(Ntaganzwa)と深い関係。

Dusabe Martin

SORWAL従業員。軍と民兵との連絡役。虐殺中は、毎日ニゼイマナ(Nizeyimana)が彼の事務室を訪問していた (HRW [1999: 506]) 。

Self-Defense) の中心人物。

Dusaidi Claude

RPF 対外関係局長。国連で RPF 代表を務めた。

Furaha Justin (Abbe)

ブタレ州サヴェ (Save) 教区の神父。1994 年 5 月 6 日に開催されたブタレ州の治安委員会 (Security Committee) で RPF 関係者として名指しされる。その直後に逮捕され、収監中に RTLTM が非難の放送を行う。5 月 31 日に釈放されるが、その直後に殺害された (HRW [1999: 532])。

Gacumbitsi Sylvestre

1943 年キブンゴ州ルソモ (Rusumo) コミューン、キギナ (Kigina) セクター生まれ。その後、キブンゴ州で教師、人民銀行 (Banque Populaire) のルソモ支店長を務めた後、1983 ~ 94 年 4 月までルソモ・コミュニティのブルグメストルを務めた。キブンゴ州ルソモ・コミュニティでの虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴される。懲役 30 年 (上告中) (ICTR)

Gahigi Gaspard

RTLTM 編集局長 (Redacteur en chef)、ザイールの科学情報技術学院 (ISTI) でコミュニケーションの学士号をとった。ハビヤリマナ政権と深い関係を持つ。1981 ~ 83 年、ORINFOR 新聞・雑誌部門責任者、83 ~ 85 年、国营ラジオ局長。その後 MRND の新聞である *Umurwanashyaka* 編集長を務めた。

Gahutu Jean de Dieu (Lieutenant)

パラ・コマンド (Para-commando) 第 2 中隊長。

Gaillard, Philippe

スイス人で、赤十字国際委員会ルワンダ代表を務める。4月9日のギコンドでの虐殺後に現場入りし、フランス人ジャーナリストのセピ（Philippe Ceppi）に対して、「ジェノサイド」だと述べる。

Gakwaya Venant

ブタレの自警団（Civilian self-defense）の会計を務める。実業家で、ブタレ商工会議所事務局長であった。

Gakwerere (Lt.)

ブタレの下士官養成学校（Ecole des sous-officiers に所属する軍人。Petites Soeurs de Jésus 修道院でムングワラレバ（Modeste Mungwarareba）神父などを殺害（AR [2000a: 29]）。

Gapyisi Emmanuel

MDR 指導者。政治部局長。カイバンダの娘と結婚。トゥワギラムングとは義兄弟。1993年5月18日に暗殺される。彼の死をきっかけに暴力が高まる（Melvern [2000: 45]）。

Gasana James

MRND の政治家。ハビヤリマナ大統領期に国防相を務める（1992～93年）。CDR の政策に反対し、1992年にはルワガフィリタ大佐（Colonel Rwagafilita）やセルブガ大佐（Colonel Serubuga）などを軍から排除した（Prunier [1995: 222]）。その結果、バゴソラなど急進派に脅され、亡命を余儀なくされた（Jones [2001: 33]）。Gasana [2002] の著者。

Gasana Jean-Baptiste

MRND 党员。ニャキズのブルグメストルだったが、ンタガンズワ（Ntaganzwa）の脅迫を受けて1992年に辞任。

Gasingwa Jean-Marie Vianney

ンタガンズワ (Ntaganzwa) の暴力的示威行為 (kubohoza) によって逃亡したブルグメストルのガサナ (Gasana Jean-Baptiste) を引き継ぎ、副ブルグメストルだったため、暫定ブルグメストルとなる。当時 24 歳。PSD に所属し、地域的指導者であった。1994 年 4 月 15 日にチャヒンダ (Cyahinda) で虐殺があった直後、ブルグメストルのンタガンズワ (Ntaganzwa) にビールを振る舞われ、その帰りにブルンディ難民に殺害される (HRW [1999])

Gatabazi Félicien

PSD の政治家。公共建設大臣を務めたが、1994 年 2 月 21 日に暗殺される。彼の暗殺が、Bucyana Martin の報復虐殺を呼んだ。

Gatete (Corporal)

ESO の軍人。ブタレの病院における虐殺に関与 (AR [2000a: 37])

Gatete Jean-Baptiste

1951 年ビュンバ州ムランビ (Murambi) コミューン、ルワンクバ (Rwankuba) セクター、カランボ (Karambo) セル生まれ。ビュンバの小学校からキガリ市ニヤミランボ (Nyamirambo) のサンタンドレ中学校 (Collège Saint-André) に進み、1973 年に修了。その後、ベルギーのルーヴァン・ラ・ヌーヴ大学で農業技術の学位取得。1978 年に帰国すると、ムタラ谷農村開発プロジェクトのニヤガタレ (Nyagatare) サイト査察官に就任。ムタラにおいて、ハビヤリマナ大統領側近や北部の政治的有力者と知遇を得る。1982 年、ムランビのブルグメストルに任命される。空手をたしなみ、体も大きかった。ビジマナ国防相ともつきあいが深かった。1993 年 11 月 29 日にムランビのブルグメストルから、家族・女性向上省 (大臣は、Pauline Nyiramasuhuko) の社会問題担当に異動。後任には腹心のムワンゲ (Jean de Dieu Mwangé) が就任した。異動後もムランビによく

出入りし、影響力を保持。1994年4月以降は、東部での虐殺を指揮。その後、タンザニアに逃亡し、ベナコ (Benaco) キャンプで「難民指導者」となる (AR [2000b])

Gatsinzi Marcel (General)

キガリ出身。ブタレ、ギコンゴロの全軍司令官。ブタレの下士官学校 (Ecole des sous-officiers) 校長を務めていたが、ンサビマナ (Nsabimana) 参謀長が大統領とともに撃墜死した後、4月7日から17日まで国軍参謀長を務める。ESOの後任は、ムヴニ (Col. Muvunyi Tharcisse) が務める。ガチンジは、フトゥ・パワーとは結び付いていない (HRW [1999: 434])。 / 4月7日午後、ブタレから車列を組んでキガリに到着。それまで自分が参謀長だと知らされていなかった (Melvern [2004: 160])

Gatsinzi Modeste (Sub-Lt.)

ESOの軍人。4月29日、ブタレの学校コンプレックス (Groupe scolaire) で、赤十字が保護していた孤児や職員の虐殺を指揮。当時31歳。1989年に入隊し、1993年にESOに配属。戦術を講義。1998年、学校コンプレックスにおける虐殺とインテラハムウエを訓練した容疑で逮捕された (AR [2000a: 49-50])。

Gatwaza Venuste (Sergeant-Major)

軍人。ハテゲキマナ (Hategekimana) 中尉の部下。ンバジ (Mbazi) コミューンの暴力行為に荷担。ムトゥンダ (Mutunda) スタジアムの虐殺に関与 (HRW [1999: 501])。 / Kabakobwa hill の虐殺に関与。トヨタの四駆のバンを運転し、「トウチを殺さない者は裏切り者だ」と言っていた (AR [2000a: 49])

Gatwaza (Warrant officer)

フエ (Huye) コミューンのカヘネレゾ (Gahenerezo) に居住する軍人。ンバジ (Mbazi) サッカースタジアムの虐殺に主導的役割を果たした (AR [2000a: 81])

Gicanda Rosalie

1959年に死去したムワミ（王）ルダヒグワの未亡人。1994年4月20日にビジムング(Bizimungu Pierre)が率いる兵士によって殺害される(HRW[1999: 470])。

Gisagara

ブタレ州ニャビシンドウ（Nyabisindu）コミューンのブルグメストル。PSD 所属のフトゥだが、トゥチ殺戮に反対。攻撃に参加したバサボセ（Basabose）という兵士を投獄。4月25日、軍により殺害される（HRW [1999: 497]）。

Habimana Jacques

SORWAL 従業員。ドゥサベ（Dusabe）からの指示を受けて行動。民兵組織との関係を利用して、ンゴマ（Ngoma）セクターのコンセイエに任命される。

Habimana Phocas

RTLМ の局長。虐殺中 RTLМ の放送内容を決定した。ビジムング（Augustin Bizimungu）将軍と頻繁に会合。以前、財務省に勤務していた（Melvern [2004: 204]）。

Habineza Jean-Marie Vianney

ブタレ州、マラバ（Maraba）コミューンのブルグメストル。当初虐殺に反対していたが、4月17日以降、国家警察、検察官（Bushishi Mathias）、副知事（Bicamumpaka Evariste）らがマラバに派遣された後、虐殺を推進するようになる（HRW [1999: 449-452]）。

Habyarabatuma Cyriaque (Major)

ブタレ州の憲兵隊長。ハビヤリマナ州知事更迭までは事態沈静化に努める。1990年以来国家警察（National Police）の司令官（commander）職にあり、トゥチや

反政府勢力を助けるなど、フェアな穏健派。4月19日にキガリへ転勤を命じられる。虐殺支持派のルシガリィエ (Major Rusigariye) が後任に座った。

Habyarimana Agathe (Kanzinga Agathe)

ハビヤリマナ大統領の妻。ゼロ・ネットワークやカングラ (Kangura) の活動に重要な働き。ニックネームは、"Kanjogera" (19世紀末頃、政治に介入して強権を行使したことで名高い王母)。フランスのヴェルジェスを (Jacques Vergès) 自分の弁護人に雇う。

Habyarimana Jean-Baptiste

1994年4月にブタレ州知事。当時唯一のトゥチの知事。PL所属。アメリカで工学博士号を取り、1990年に大学に職を得て帰国。1990年10月のトゥチ一斉逮捕の際に収監されるが、その後釈放。1992年7月、知事に就任。94年4月6日以降、虐殺に抵抗したため、ブタレ州だけ虐殺の開始が遅れた。4月18日に更迭され、その後大統領警護隊に暗殺される。SORWAL 支配人の Higaniro の父親 (ハビヤリマナ大統領の担当医) から外国留学の資金提供を受けており、Higaniro のことは信用していたらしい (AR [1995a], HRW [1999])。

Habyarimana Juvénal

1937年、ギセニ州ランブラ (Rambura) 生まれ。ロバニウム大学 (コンゴ) の大学入学準備プログラム (1年間) に通った後、キガリの士官候補生学校に入学。優秀な成績で卒業。卒業と同時に、ベルギー人士官の補佐となる。1963年、国民防衛軍 (National Guard) のトップとなり、1964年1月には大尉 (Major) に昇進。1965年には国防警察省 (Ministry of National Guard and Police) の大臣となり、1973年7月5日に無血クーデタで政権を掌握した。1975年7月、「開発国民革命運動」 (Mouvement révolutionnaire national pour le développement: MRND) を設立し、唯一の政党と定める (Dorsey [1994])。1991年に複数政党制を導入。1994年4月6日、搭乗機が撃墜され、死亡。

Hakizimana Pontien

1992年4月の第二次複数政党制内閣発足に伴って、J. ガサナが国防相となり、それによってバゴソラらとともに退役した将校。

Halindintwali Célestin

ブタレ州における自警団 (Civilian Self-defense) の中心人物。

Hategekimana Déogratias

ブタレの虐殺において重大な役割を果たす。ルニニャ (Runyinya) コミューンのブルグメストル。カラム教区の虐殺 (43,000 人死亡) の責任者 (AR [1995a: 129, 348])。ハビヤリマナ知事が解任されるまでは、難民に食糧を供給するなど親切に扱う。その後、攻撃を指示、先導した。/ 4月20日の治安委員会 (Security Committee) でジェノサイド容認に傾く (HRW [1999: 467], AR [2000a: 64])。

Hategekimana Gaspard (Captain)

シンビカングワ (Simbikangwa) と協力関係にあった軍人。

Hategekimana Ildephonse (Lieutenant)

ギタラマ州ムギナ (Mugina) コミューン生まれ。1994年の虐殺事件の際、ブタレ州ンゴマ (Ngoma) キャンプの司令官。職位は中尉。キャンプ司令官として、キャンプの兵士、職員に影響力を行使する一方、ESO 校長のムヴニ中佐 (Lt.-Colonel Muvunyi Tharcisse) の指揮下にあった。(ICTR) / 別名「ビコマグ」 ("Bikomagu")。ンゴマ軍キャンプのチーフ。ニゼイマナ (Nizeyimana) を支持。4月30日、ンゴマ教会、ベネビキラ (Benebikira) 修道院の虐殺を実行 (HRW [1999: 491], AR [2000a: 51-54])。ニゼイマナとともに、ブタレの虐殺に軍を関与させた重要人物。特にンゴマやブタレ州南部の暴力行為に責任がある。5月半ば、その職をンタババジ (Major Ntambabazi) と交代した (HRW [1999: 500,

Hategekimana Philippe (Sergeant Major)

国家警察幹部。ンダヒマナ(Ndahimana Mathieu)からムフトウ(Muhutu Adalbert)への要請を受けてンタヤゾ (Ntyazo) に送られた警察を指揮。

Havugimana Déo

外務省官房長。虐殺開始後すぐに殺害された。MDR 所属のフトウ。

Héraud, Jacky

ハビヤリマナ大統領搭乗機のパイロット。(*Le Monde*, 2004 年 3 月 10 日)

Higaniro Alphonse

ギゼニイ州出身。ベルギー留学後、ハビヤリマナ政権で閣僚を務める。1992 年、ブタレのマッチ工場(SORWAL)の支配人に任命される。CDR ブタレ州支部長。ベルギーで逮捕され、2001 年に裁判を受ける。SORWAL は急進派(民兵)の牙城であり、多くのスタッフが虐殺に関与した。ブタレ南西部のマヤンゲ (Mayange) での RPF との戦闘には、その従業員が参加している。 / 妻の父親がハビヤリマナ大統領の担当医師であったが、彼はハビヤリマナ・ブタレ州知事が外国留学する際に資金を用立てていたことから、州知事の信頼を得ていた。(HRW [1999: 436])。ヒガニロは、ニゼイマナ (Nizeyimana) とともに懇意であった。2001 年、ベルギーで裁判が実施され、懲役 20 年の判決が下る。

Hitimana Noël

RTLМのアナウンサー。ラジオ・ルワンダに 10 年勤務した後、人気アナウンサーとして RTLМに移籍した。1998 年に放送された NHK スペシャル「なぜ隣人を殺したか」でも取材された。

Imanishimwe Samuel (Lt.)

1961年10月25日、ギセニイ州生まれ。軍中尉で、1993年10月から翌年7月の国外逃亡まで、チャンググのカランボ(Karambo)軍キャンプの司令官代理。人道に反する罪、ジェノサイド罪で懲役27年の判決。(ICTR) / 自警団(Civil defense)を統括。知事のバガンビキ(Bagambiki Emmanuel)の協力を得た(Melvern [2004: 213])。

Inkuba

MDRの青年部を指すルワンダ語名称。「雷」の意味。

JDR

Jeunesse Démocrate Républicaine。MDR青年部を指すフランス語名称。ニャキズ(Nyakizu)では、ブルグメストルのンタガンズワ(Ntaganzwa)が組織した(HRW [1999: 356])。

Kabano

ニャキズ・コミューン、ヤランバ(Yaramba)セクターにおけるJDR指導者。

Kabanza Christophe

元兵士。ブタレ州の虐殺に関与。

Kabeza Charles

ブタレ州ニャルヘンゲリ(Nyaruhengeri)のブルグメストル。ンゴマ(Ngoma)の州事務所に逃れていたトゥチ避難民をニャルヘンゲリに連れて行き、虐殺した。

Kabiligi Gratien (Brigadier-Général)

1951年12月18日、チャンググ州カメンベ(Kamembe)コミューン、ルスニユ

(Rusunyu) セクターで生まれた。虐殺の際、ルワンダ軍最高司令部軍事作戦局 (G-3) 長。ルワンダ全域において、軍事作戦の計画、調整、実行の確保に責任ある立場であった。1993 年には、ビュンバ・セクター軍事作戦司令官。1994 年 4 月 16 日に准将に任命されたが、その前に大佐に昇進していた。ルワンダ軍最高司令部における軍事作戦局 (G-3) 長として、ビュンバ、ルヘンゲリ、ムタラ、キガリ、各セクターの部隊と、大統領警護隊、パラ・コマンド部隊、偵察部隊のような精鋭部隊を指令下に置いた。(ICTR) / ゼロ・ネットワークのメンバー。虐殺サイトを埋めるためにタンクの出動を許可 (Melvern [2004: 32, 203])

Kabuga

もトンバジ (Mbazi) のブルグメストル。CDR の地域指導者。MDR のセムワガ (Semwaga) と緊張関係にあった。誘拐の上、殺害されたが、その背後にセムワガがいたとされる。

Kabuga Félicien

1935 年、ビュンバ州ムカラング (Mukarange) コミューン、ムニガ (Muniga) セクター生まれ。実業家。婚姻関係を通じてハビヤリマナ大統領と関係を有する。国家防衛基金暫定委員会 (Comité provisoire des Fonds de Défence Nationale) 委員長で、RTLTM の執行理事会 (Comité d'initiative) 理事長。MRND、CDR およびそれぞれの民兵グループに対する主たる資金供給源として、インテラハムウェを含め、これらの組織に多大な影響を有していた。(ICTR) / 息子がハビヤリマナ大統領の娘と結婚。

Kagabo Jean-Baptiste

ンバジ (Mbazi) の元ブルグメストル。CDR 州副支部長。虐殺に関与。

Kagame Paul (Major-General)

元 RPF 総司令官。現大統領。

Kageruka Martin (Dr.)

ブタレの大学病院のスタッフ。5月末にベネビキラ (Benebikira) 修道院捜索隊を率いる。

Kageruka Vincent

ブタレ州トゥンバ (Tumba) に住んでいたトゥチ。殺戮が始まったとき、ブルンディに逃げようとしたが適わず、トゥンバに4月末から隠れる。5月14日に発見され、監獄に送られたが、5月24日逃亡に成功。

Kajelijeli Juvénal

1951年12月26日、ルヘンゲリ州ムキンゴ (Mukingo) コミューン、ルウィンゾヴ (Rwinzovu) セクター生まれ。1988年~93年の間、ムキンゴ・コミューンのブルグメストルを務める。1994年6月に再び任命され、7月までその職にあった。ルヘンゲリ州ムキンゴ・コミューンを中心とする地域での虐殺に重要な役割を果たした(インテラハムウェ組織化、MRND 事務局長 Nzirorera との連絡調整など) として起訴。有罪。(ICTR)

Kajuga Robert

インテラハムウェの全国司令官。父がフトゥで母がトゥチといわれ、兄弟に虐殺犠牲者が多い。「大統領」("Le President") というニックネームを持つ (AR [1995a: 56, 114])。

Kajyambere Pierre Canisius

ブタレ州キバイ (Kibayi) コミューンのブルグメストル。ギサガラ (Gisagara) の副知事ンタウクリリャヨ (Ntawukuliryayo) が 1994年5月に開催した会合で、ソルガム畑や藪に「敵」がいるかも知れないから、注意すべきだと発言。

Kalimanzira Callixte

1953 年、ブタレ州ムガンザ (Muganza) コミューン生まれ。農業指導員としての教育を受け、政府のポストを歴任。1994 年 4 月の虐殺の際、シンディクブワボ大統領、カンバンダ首相などと非常に近い関係にあった。彼らと同様、政府高官になった数少ないブタレ州出身者で、大統領と同じ MRND に属していた。ブタレ州、ビュンバ州の副知事、キガリ州農業サービス・コーディネーター、共和国大統領府農村開発部長、内務省事務局長を歴任。暫定政権期に内務省官房長を務めた。4 月 6 日から 5 月 25 日の間、彼は事実上の内務大臣だった。また、MRND 有力メンバーであり、ブタレ州において、ブルグメストル、コンセイエ、レスポンサブル、行政スタッフ、憲兵隊、コミュニティ警察に対して、法的、実質的な権力を行使した。(ICTR)

Kalisa Cansius

ニャキズ・コミュニティの農業技師。ブルグメストルのンタガンズワ (Ntaganzwa) の謀略で、ガシングワ (Gasingwa) と共に殺害される。

Kamanayo

元兵士。フエ (Huye) の虐殺を先導。

Kambanda Jean

1955 年 10 月 10 日、ブタレ州ムブンバノ (Mubumbano) 生まれ。妻と 2 人の子がいる。商学の学位 (Diploma d'ingénieur commercial) を持ち、1989 年 5 月から 1994 年 4 月までルワンダ人民銀行 (Union des Banques populaire du Rwanda) で働き、頭取となる。MDR ブタレ支部の副総裁で、政治局員だった。1994 年 4 月 9 日、暫定内閣の首相に就任。MDR-Power 派。(ICTR)

Kambanda Pascal

ブタレ州の虐殺に関与した、ブタレ州ギシャンヴ・コミュニティのブルグメストル。4月11日にシンディクブワボ暫定大統領とともに会見。12日にキビンゴ・セクターで集会を行い、「裏切り者」を名指しする（AR [1995a: 353]）。

Kamuhanda Jean de Dieu

1953年3月3日、キガリ・ルーラル州ギコモロ（Gikomero）コミュニティ生まれ。1994年5月末、ンバングラ（Nbangura Daniel）に代わり、高等教育科学研究相に就任。7月半ばまでその職にあった。1994年4月以前、高等教育科学研究省局長を務め、5月末まではシンディクブワボ（Sindikubwabo）大統領の特別補佐官であった。キガリ・ルーラル州における有力なMRND 党員。（ICTR）

Kamweya André

Rwanda Rushya 紙のジャーナリスト。大統領機撃墜事件後すぐに殺害された（Prunier [1995: 230]）。

Kangabo Cyiza

前大統領警護隊員。Sorwal 従業員。ヒガニロ（Higaniro Aophonse）の秘書を務める。

Kanyabashi Joséph

1937年、ブタレ州フエ（Huye）コミュニティ、ンパレ（Mpare）セクター生まれ。1994年4月当時、ブタレ州ンゴマ（Ngoma）コミュニティのブルグメストル。1974年から94年7月4日頃までこの職にあった。ブタレ州における虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。（ICTR）/ PSD 派。4月19日にンサビマナ（Nsabimana）新知事就任式で演説。PSD と RPF とが関係していると疑われることを恐れ、政府支持を明らかにする（HRW [1999: 458]）。

Kanyarukiga Gaspard

1945 年、キブエ州キヴム (Kivumu) コミューン生まれ。1994 年 4 月当時、キヴム・コミュニティとキガリで働くビジネスマンであった。ニヤンゲ (Nyange) 教会などキヴム・コミュニティでのトウチ虐殺に関与したとして起訴。(ICTR)

Kanziga Agathe

ハビヤリマナ大統領夫人。Habyarimana Agathe 参照。

Karamira Froduald

MDR 副議長。パワー派の中心人物。ギタラマ州出身。トウチであるが、自らのフトゥ性を証明するため急進活動を熱心に行ったといわれる。内戦後本国で死刑判決を受け、1998 年に公開処刑される。

Karekezi Symphorien

ブタレ州キゲンベ (Kigembe) のブルグメストル。PSD に所属。ンクンダバクラ (Nkundabakura Bonaventure) とムタバールカ (Mutabaruka Bernard) によって、殺戮キャンペーンの指導者から降ろされる (HRW [1999: 513, 557])。

Karema Isidore

ブタレ州ムヤガ (Muyaga) コミューンの副ブルグメストル。トウチ。軍の攻撃を受け、焼死 (AR [2000a: 85])。

Karemera Alphonse (Dr.)

ブタレ大学医学部長。ンシミュムレミ (Nshimyumuremyi) 副学長の承認下に病院の「クリーンアップ」作戦策定。難民を追い出す。

Karemera Edouard

1951 年、キブエ州ムウエンド (Mwendo) コミューン生まれ。弁護士の訓練を受け、1994 年 4 月発足の暫定内閣で内務大臣を務める。暫定政府がルワンダか

ら逃亡するまでその職にあった。MRND 第一副総裁であり、1993 年 7 月以来、党中央委員。(ICTR) / 暫定内閣内相。ムニャネザ(Munyazesa)の後任として、暫定政権内相を務める。法律家。前 MRND 事務局長。キブエ州の自警団 (civil defense) をニイテゲカ (Niyitegeka) とともに統括。アルーシャ協定ではなく、1991 年憲法を用いてシンディクブワボを大統領に任命させた。(Melvern [2004: 213])

Karenzi

ルワンダ国立大学教授。ブタレでのタッチの指導者と目される。1994 年 4 月 21 日、フォコン・ホテル (Holtel Faucon) 前で、ンサビマナ (Nsabimana) 知事とンシミュムレミ (Nshimyumuremyi) 学長の目の前で射殺される。大統領警護隊の犯行とされる。

Karera François

1939 年頃、キガリ・ルーラル州ムササ (Musasa) コミューン、フロ (Huro) セクター生まれ。1994 年 4 月、キガリ・ルーラル州知事に任命され、7 月までその職を務める。1992 年から、キガリ・ルーラル州ブゲセラ (Bugesera) 地域の副知事であった。それ以前、彼は、キガリ・ルーラル州ニャルゲンゲ (Nyarugenge) コミューンのブルグメストルであった。MRND の党员。キガリ州およびキガリ・ルーラル州での虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。(ICTR)

Kavaruganda Joséph

憲法裁判所長官。フトゥ。虐殺開始後すぐに殺害される。1994 年 2 月 21 日にはオフィスが襲撃され、書類が盗まれるという事件があった(Melvern [2004: 105, 148])

Kayibanda Grégoire

ルワンダ独立時の大統領。1924 年、カブガイ (Kabgayi) 生まれ。父はコンゴ

出身のシ (Shi)、母はフトゥといわれる。ニヤキバンダ (Nyakibanda) の神学校を卒業後、キガリのクラセ学院 (Institut Classé) で小学校教師の職を得る。そこで、ベルギー人入植者ゴセンス (J.F.C. Gossens) が設立した文化協会「ベルギー・コンゴ友好協会」の秘書を務める。1952年、カブガイの神学校に戻り、新聞「L'Ami」や雑誌「Kinyamateka」の編集に関わる。また、ペロダン (Perraudin) 大司教の秘書を務める。ベルギーのキリスト教社会党とのつながりで、1950、57年にベルギーを訪問。1957年、「バフトゥ宣言」を発表。同年、フトゥ社会運動 (Mouvement social muhutu: MSM) を設立して政治活動を行う。1958～59年、カトリック教会の招きでブリュッセル滞在。ジャーナリズムを学ぶ (Dorsey [1994])。1959年、フトゥ解放運動党 (Parti du mouvement de l'émancipation des Bahutu: PARMEHUTU) の党首となる。1961年10月、議会から大統領に選出され、そのまま1962年の独立に伴って初代大統領となる。1973年7月、ハビヤリマナ国防相のクーデタで失脚。1976年に死去。

Kayishema Clément

1954年、キブエ州ブウィシュラ (Bwishyura) セクターでフトゥの家族に生まれる。父は教師で、後に病院の管理人として働いた。母親と7人のキョウダイは教育を受けていない。1974年、カニャガレ裁判所 (Kagnagare Canton Tribunal) の記録係に任命される。その後、ブタレのルワンダ国立大学医学部の授業を受けるための奨学金を得て、医療一般と外科を専攻。1984年、ルワンダ政府からウガンダの難民キャンプに医師として派遣される。1986～91年、ニャンザ (Nyanza) 病院に医師として勤務。その後、キブエ病院に移る。1987年に結婚し、2人の子供をもうける。1992年4月、PDC (キリスト教民主党: Christian Democratic Party) の党員となる。党のモットーは、「労働、公正、兄弟愛」であった。1992年7月3日、キブエ州知事に任命され、1994年にはその職を暫定政権から再任される。キブエ州での虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。無期懲役。(ICTR)

Kayitakire Athanase

ビジネスマン。1994年5月6日のブタレ州治安委員会（Security Committee）でRPF関係者として名指しされる。その後、逮捕されたが、釈放。その直後に殺害される。ンタホバリ（Ntahobari Shalom）と民兵が殺害したといわれる（HRW [1999: 534]）。

Kayumba Cyprien (Lt.-Col.)

国防省財務部長。1994年4月6日夜の会合で、バゴソラが「軍が権力を奪うべきだ」と述べたとき、最初に賛成した。翌朝まで聞こえた銃声について部下に問われ、首相をラジオ局に行かせないようにしていると返答。翌日6時30分にラジオ・ルワンダで流された大統領死亡の公式声明を作文した（バゴソラが署名）（Melvern [2004: 137, 146, 150]）。

Kimonyo

元兵士（元伍長）。ニラマシュフコ（Nyiramasuhuko Pauline）のボディガード兼運転手。ブタレ州の虐殺を先導。

Kivenge

1994年7月にブタレ州ンゴマ（Ngoma）で起こった唯一の虐殺の犠牲者。おそらくフトゥ。ハビマナ（Jacque Habimana）とニイテゲカ（Edouard Niyitegeka）が、掠奪のために、軍人のウワマホロ伍長（Corporal Uwamahoro）を引き入れて犯行に及んだ。バトゥワレ（Batware）がハビマナとニイテゲカを逮捕したが、1日しか収監できず、すぐ釈放となる。

LIDER

Ligue des étudiants du Rwanda. 1993年にハビヤリマナ大統領支持派の学生が、既存の学生組織 AGEUNR に対抗して新たに設立した。指導者は、大学学長の妻で家族女性問題相のニラマシュフコ（Pauline Nyiramasuhuko）とその息子のン

タホバリ (Shalom Anselme Ntahobari)

Lemaire, Luc (Lieutenant)

UNAMIR ベルギー部隊で、ETO (Ecole Technique Officielle) に展開していた 90 名の司令官。11 日に撤収命令を受け、2000 名の避難民を放棄。避難民はその後、ニャンザ(Nyanza)の墓穴まで歩かされ、そこで殺された(Melvern[2004: 186])。

Maggen, Peter (Major)

ベルギー軍作戦士官。

Maniraho Jean-Marie Vianney

ルワンダ国立大学教授。フトゥ。市内に軍が展開していることを批判し、殺害される。

Marchal, Luc (Colonel)

ベルギー軍の士官。UNAMIR のキガリ地区司令官。ベルギー国務省大臣官房長。陸軍に 30 年勤務。うち 15 年間はパラコマンド所属。ザイールで 5 年過ごす。

Marlaud, Jean-Philippe

1994 年 4 月当時、在ルワンダフランス大使。

Masinzo Jérôme (Abbe)

ブタレ州ンゴマ (Ngoma) 教会の神父。虐殺の標的とされ、4 月から 7 月 3 日のフランス軍展開時まで隠れる (HRW [1999: 587]) 。

Matabaro (Deputy Prosecutor)

副検察官。ブタレ州のブイエ (Buye) において、ニゼイマナ (Nizeyimana) の監視の下で処刑される。

Maurin, Jean-Jacques (Colonel)

1994 年 4 月当時、在ルワンダフランス大使館軍事アタシェ。

Mbangura Daniel (Dr.)

前大学副学長。暫定政権期に高等教育科学研究相を務める（留任）。MRND 中央委員。

Mbonabaryi Noël

大統領のオジで後ろ盾。国会議員。アカズだが、1994 年初めに死去。(Chrétien [1995])

Mbonampeka Stanislas

前法相。PL の第二副議長。キガリ郊外のンデラ (Ndera) における殺戮に関与したとされる。1992 年 11 月 21 日のムゲセラ (Léon Mugesera) による煽動演説に対しては、法相として訴追した。ただし、すぐに撤回を余儀なくされた (Melvern [2004: 38])。

Mbonyubwabo Camille

ブタレの実業家。高齢だが、尊敬されていた。大統領警護隊によって息子と共に殺害された (HRW [1999: 502])。

Mbonyumutwa Shingiro

MDR-Power 派。1961 年の「ギタラマのクーデタ」で大統領に任命されたドミニク・ンボニユムトゥワの息子。ラジオ・ルワンダで煽動演説を行う。「彼らは殺しに殺し、自分たち以外残らなくなるまで殺しまくるだろう。そうして、彼らの父親たちが 400 年にわたって保持した権力を、1000 年にわたって保持するだろう」(HRW [1999: 227])。

Mérimée, Jean-Bernard

1994 年 4 月当時、フランスの国連大使。

Micomyiza

ンゴガ (Ngoga Alphonse) の息子。大学生。ブルンディ難民を組織し、バリケードに張り付く。

Minaberry, Jean-Pierre

ハビヤリマナ大統領搭乗機のパイロット。撃墜の 5 週間前に雇用主の Société service et assistance aux techniques industrielles française (SATIF) に対して RPF がミサイルを持っていると危険性を指摘していた(*Le Monde*, 2004 年 3 月 10 日) 。

Mpambara Jean

1954 年、キブンゴ州ルカラ (Rukara) コミューン生まれ。1994 年 4 月当時、キブンゴ州ルカラ・コミューンのブルグメストルの職にあった。ルカラ・コミューンでの虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。(ICTR)

Mpfizi

ムイラ (Muyira) コミューンのコンセイエ。

Mpiranya Protais (Lieutenant-Colonel)

ギタラマ州生まれ。1994 年 4 月、ルワンダ軍高等司令部大統領警護隊司令官の職にあった。1993 年には、大統領警護隊軍事作戦・諜報部次長を務める。同年、大統領警護隊司令官に任命された。(ICTR) / ジェノサイドのオーガナイザー (Prunier [1995: 229])。 / ダレールらへのインフォーマント Jean-Pierre が、移行行政権の設立を妨害していると名指し。サガトゥワ (Sagatwa) が大統領とともに撃墜死した後、バゴソラはンピラニャを通じて大統領警護隊を掌握し、指示

していたとされる (Melvern [2004: 97, 175])。

Mbangura Daniel

1994 年 4 月発足の暫定政権内閣高等教育相。前大学学長。中道派。

Muberuka Félicien (Colonel)

軍人。危機委員会のメンバー。

Mugambage Frank (Colonel)

RPF 参謀長。内戦再開後、FAR の参謀長ガチンジ (Gatsinzi) と交渉 (Prunier [1995: 268])。

Muganga Joséph

ブタレ州における MRND の地域代表。フエ (Huye) の治安委員会 (Security Committee) 設立時に、MDR 代表のルケラホ (Rekeraho) らとともに訓辞。

Mugaragaza Frédéric

ブタレ州ギシャンヴ・コミューンのコミューン警察。ギシャンヴの殺戮に積極的に関わる。ガハンゲ (Gahange) セルの攻撃を指揮。

Mugenangabo Silas

ギコンゴロの紅茶工場支配人。ルワミコ (Rwamiko) の教会に避難している難民を攻撃。

Mugenzi Justin

1949 年、キブンゴ州ルカラ (Rukara) コミューン、ガヒニ (Gahini) セクター生まれ。1994 年 4 月 9 日から 7 月中旬まで、暫定内閣の貿易産業相を務める。1993 年 7 月 8 日発足内閣の貿易相。1994 年 3 月 18 日付以降内閣 (BBTG) で

も大臣に任命された。ビジネスマンで、政治家。PLの結成に加わり、フトゥ・パワー派を率いた。(ICTR) / 1993~94年に強硬派として名を馳せる。ルカラ出身。妻を殺害した罪で10年禁固刑の判決を受け、6年拘留された後1989年に出所。PLに所属。PLの急進派に武器供与。

Mugesera Léon

MRND急進派。カナダのフォール・ラヴァル(Fort Laval)大学で博士号取得。ギセニイ州MRND副支部長。1992年、トウチはエチオピアに帰れと、トウチ虐殺を煽動するスピーチを行う。1994年4月6日以前にカナダに出国し、当初はスピーチをしたことを否定していた。1995年1月27日、カナダ当局により逮捕される。/ 文民のゼロ・ネットワークメンバー(Melvern [2004: 32])。

Mugiraneza Prosper

1957年、キブンゴ州キガラマ(Kigarama)コミュン生まれ。1994年4月9日から7月半ばまで、暫定内閣の市民サービス(Civil Service)相を務める。1991年12月31日発足の内閣で労働・社会問題相を、1992年3月16日および1993年7月18日発足の内閣で市民サービス相を務めた。MRNDの大変影響力のあるメンバー。(ICTR) / 急進派ではなかった(Prunier [1995: 233])。

Muhimana Mikaeli

1961年10月24日、キブエ州ギシタ(Gishyita)コミュン、ギシタ(Gishyita)セクター、カガノ(Kagano)セル生まれ。ミカ(Mika Muhimana)として知られる。1990年にギシタ・セクターのコンセイエに就任。1999年11月8日、タンザニアのダル・エス・サラームで逮捕。MRND支持派。キブエ州ギシタ・コミュンおよびビセセロ(Bisesero)地域での虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。(ICTR)

Muhutu Adalbert

ブタレ州の元ブルグメストル。MRND 所属の国会議員。

Muhutu Adélar

ブタレ州ムイラ (Muyira) コミューン of ブルグメストル。

Mujawamaliya Monique

人権活動家。1994 年虐殺時には、天井裏に隠れて生き残りに成功した (Prunier [1995: 230])

Mukangango Gertrude Consolata (Sister)

ブタレ州フエ (Huye) コミューン、ソヴ (Sovu) 修道院の責任者。1994 年 5 月 6 日、修道院内に匿っている者を全て追放するよう命じる (HRW [1999: 537], AR [1995b])。2001 年、ベルギーで懲役 15 年の判決。

Mungwarareba Modeste (Abbe)

カルバンダ (Karubanda) 神学校長を務めた神父。ンテジマナ (Ntezimana Laurent) とともに和解プログラムに参加。1994 年 5 月 6 日に開かれたブタレ州の治安委員会 (Security Committee) では、RPF 関係者として名指しされる。5 月 20 日、教会に逃げてきた人々に武器を配ったと RTLTM の放送で非難される。教会などに隠れ続け、7 月 3 日フランス軍のブタレ展開時に救出された (HRW [1999: 533, 587])

Munyagashere Issac

ブタレ州の裕福な実業家。MDR-Power の支持者。

Munyakumburwa Said

ブタレ州ンゴマ (Ngoma) セクターの長 (コンセイエ) で、はじめタッチに対する虐殺を止めようとしたため、脅されて逃亡。その後ポストに復帰したが、

兵士とともに掠奪に関与し、その分配をめぐる争いとなる。その後、兵士に誘拐され、殺害された。ンテジマナ (Ntezimana Laurent) がブルグメストルのカニヤバシ (Kanyabashi) に助けを求めたが間に合わなかった。後任のコンセイエには、ハビマナ (Habimana Jacque) が選出された。

Munyazesza Faustin

ハビヤリマナ政権期に内相を務める。MRND 中央委員。キガリ出身で、ビュンバ、キガリの州知事を歴任した。CDR のシンパ。

Munyemana Sostéhése

ブタレ州、トゥンバ (Tumba) の有名な医師。RPF がキゲンベ (Kigembe) を攻撃したと誤った情報を流し、トゥチ・フトゥ間に敵対感情を醸成した (HRW [1999: 456])

Munyengango François (colonel)

ブタレ州フエ (Huye) 出身。ムヴニ (Muvunyi) の後任としてブタレ・ギコンゴロ軍司令官に就任。

Murasampongo Joséph

軍人。危機委員会メンバー。

Murego Donat

MDR-Power 派全国事務局長。かつてはハビヤリマナに敵対し、投獄されていた。

Musabe Pasteur

銀行の頭取。全国レベルにおける民兵の組織者 (Prunier [1995: 239]) / BCA (Banque Continentale Africaine) の頭取 (Directeur-General)。バゴソラのキョウダイ (Melvern [2004: 34])

Musabyimana Samuel

1956年7月6日、キブエ州ムウェンド（Mwendo）コミュニオン生まれ。1994年4月の時点では、ギタラマ州シュヨグウェ（Shyogwe）教区でアングリカン・チャーチの司教であった。ギタラマ州シュヨグウェ教区の虐殺に関与したとして起訴。公判中に死亡。（ICTR）

Musema Alfred

1949年8月22日、ビュンバ州生まれ。ブタレ州で育つ。ベルギー、ゲンブル（Gembloux）の国立大学農学部（Université d'État, Faculté des Sciences Agronomiques）で1968年に学業を開始し、1974年に卒業。1975年に結婚し、3人の子供をもうけた。妻もブタレ州の出身。農業畜産省でキャリアを開始し、ORSTOMと協力。1984年、大統領令により、35歳でギソヴ（Gisovu）紅茶工場長に任命される。これは国営企業 OCIR-Thé の工場であった。ギソヴ紅茶工場は、1977～83年にかけて建設され、84年の段階ではまだ生産実績がなかったが、その後生産を急増させ、1993年にはルワンダで最も重要な紅茶生産工場の一つとなった。紅茶工場はキブエ州にあったが、ムセマはキブエ州とギコンゴロ州を担当した。ビュンバ州の州委員会（conseil préfectorial）、ブタレ州の技術委員会のメンバー。これらはいずれも経済、開発に関わる委員会であって、政治的なものではなかった。インテラハムウェを訓練し、彼らを統率。ピセセロや紅茶工場などキブエ州における虐殺に関与したとして起訴。無期懲役の判決。（ICTR）

Mutabaro

ブタレ州の副検事（Deputy Prosecutor）、フトウ。ニゼイマナ（Nizeyimana）の隣人だったが、1994年4月以降に殺害される。

Mutabaruka Bernard

CDR のキゲンベ (Kigembe) 地域リーダー。キゲンベのトゥチ虐殺に関与。MDR-Power の地域指導者だったンクンダバクラ (Nkundabakura Bonaventure) と盟友。両者で PSD のブルグメストルだったカレケジ (Karekezi Symphorien) と抗争 (HRW [1999: 513])

Mutaganda Innocent

ニャキズのコンセイエ。1994 年 5 月 18 日の治安委員会 (Security committee) では、ンタガンズワ (Ntaganzwa) 派から職責を果たしていないと非難される。トゥチ虐殺に反対姿勢。

Mutwewingabo Bernard

大学教授。ブイエ (Buye) のインテラハムウェの指導者となる。6 月 7 日、治安委員会出席。

Muvunyi Tharcisse (Colonel)

1953 年 8 月 19 日、ビュンバ州ムカラング (Mukarange) コミューン生まれ。ブタレの下士官学校 (Ecole sous-officiers: ESO) に勤務していたが、1994 年 4 月 7 日に彼の上司ガチンジ (Gatsinzi Marcel) 大佐がルワンダ軍参謀長に任命された後、校長 (Commander) の職に就いた。ESO 校長として、学校の士官、兵士に対する指揮権を保持。また憲兵隊および軍キャンプ、さらにブタレ州における軍事作戦に対して影響力を行使した。(ICTR) / 4 月 19 日、ブタレの虐殺を開始する作戦を指揮。フトゥ・パワーとは結び付いていない。ブタレの殺戮を主導した軍関係者は、ニゼイマナ (Nizeyimana) とハテゲキマナ (Hategekimana) であった (HRW [1999: 434, 500])

Nahimana Ferdinand

1950 年 6 月 15 日、ルヘンゲリ州ガトンデ (Gatonde) コミューン生まれ。1977 年からルワンダ国立大学の講師補助であり、1978 年に文学部副部長に選出され

た。1981～82年にルヘンゲリ・キャンパスの行政委員会委員長、1983～84年にルヘンゲリ・キャンパス事務局長補助を務める。1990年、ルワンダ情報局（ORINFOR）局長に任命され、1992年までその職にあった。1992年、RTLM立ち上げのために執行理事会（Comité d'initiative）を設立。MRNDの党員。（ICTR）/ルワンダ国立大学ルヘンゲリキャンパスの歴史学教授。ORINFOR局長として、1992年3月3日、「FPRの政府要人暗殺リスト」をラジオ・ルワンダで発表させ、ブゲセラの虐殺を引き起こす（Chrétien [1995: 58]）。内外の強い抗議を受けて、首相のンサンジマナ（Nsanziimana Sylvestre）に解任される。内定していたドイツ大使館での勤務を拒否され、大学に戻る。その後、RTLM設立（1993年4月設立。1993年7月8日から放送開始）に関わる。

Nahimana Mathieu

1994年6月20日、空席だったンタヤゾ（Ntyazo）のブルグメストルに就任（HRW [1999: 581]）。

Nahimana Théoneste

CDRの副議長。急進派中の急進派。

Nchamihigo Siméon

1960年9月8日、チャンググ州ガタレ（Gatare）コミューン生まれ。1994年4月から7月の間、チャンググ州の共和国検事代理（副検事長）を務める。また、チャンググ州におけるCDRの事務局長でもあった。チャンググ州におけるトゥチの虐殺に関与したとして起訴。（ICTR）

Ncogoza Charles (Abbe)

ブタレ州ニヤキズ、チャヒンダ（Cyahinda）教会の神父。トゥチ。教会攻撃の際は逃れたが、5月21日に発見され、殺害される。

Ndagijimana Jean-Marie Vianney

在仏ルワンダ大使。ハビヤリマナ政権は、彼が管理する口座から武器調達を行っていたが、MRND から MDR に支持政党を代えたため、政権の信頼を失う (Melvern [2004: 57-58])

Ndahimana Mathieu

ブタレ州ンタヤゾ (Ntyazo) コミューン ニヤムレ (Nyamure) セクターの医療補助員。トゥチを攻撃。抵抗が思いのほか強かったので、4月27日に、前ブルグメストルで MRND 所属国会議員のムフトゥ (Muhutu Adalbert) に国家警察 (National Police) の援軍を送るよう要請。

Ndahitiwa Nicholas

Sorwal 従業員。倉庫係。

Ndambayaje Elie

ブタレ州、ムガンザ (Muganza) コミューンのブルグメストル。新知事のもとで4月20日に開催された治安委員会 (Security Committee) 以降、トゥチ殺戮を積極的に煽動した (HRW [1999: 468])

Ndasingwa Landwald

自由党 (PL) の民主派リーダー。大統領搭乗機撃墜事件後すぐに、キガリでカナダ人の妻、2人の子供とともに殺害された (Prunier [1995: 230])。 / キガリで有名なホテル・レストラン "Chez Lando" の所有者だった。労働・社会問題相を務める。

Ndayambaje Elie

1958年3月8日、ブタレ州キバイ (Kibayi) コミューン、チンバ (Cymba) セクター生まれ。1994年6月22日の段階で、ブタレ州ムガンザ (Muganza) コミ

ューンのブルグメストルであった。1983～92年にも、同じコミューンのブルグメストルであった。長年にわたりムガンザ・コミューンのブルグメストルの職にあったため、影響力が大きかった。1994年、公的にはブルグメストルの職を辞任していたものの、なおムガンザ・コミューンでは影響力が大きかった。1994年4月19日に政府が虐殺を呼びかけると、事実上のブルグメストルとなって虐殺を監視。1994年6月22日、カンバンダ首相率いる暫定政権によってムガンザ・コミューンのブルグメストルに任命された。ムガンザ・コミューンの虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。(ICTR, HRW [1999: 581])

Ndayisaba Faustin

大学職員。ブタレのルワンダ国立大学における殺戮に関与。

Ndayizeye (Corporal)

ニゼイマナ (Nizeyimana) のボディガードの1人。

Ndengeyinka Balthazar (Colonel)

軍人。危機委員会メンバー。

Ndinbati Aloys

1950年代の初めから半ば頃に、キブエ州ギソヴ (Gisovu) コミューン、ギタブラ (Gitabura) セクター生まれとされる。1990年、ギソヴ・コミューンのブルグメストルに任命される。1994年末まで彼はブルグメストルとして行動した。現在コンゴにいる模様。ビセセロなどキブエ州での虐殺に関与。未逮捕。(ICTR)

Ndimbilinda Albert

ブタレ州ニャキズ・コミューンのコンセイエ。1994年5月18日の治安委員会 (Security committee) でンタガンズワ (Ntaganzwa) 派から職責を果たしていないと非難される。トゥチ虐殺に反対姿勢。

Ndindabahizi Emmanuel

1950年、キブエ州ギテシ（Gitesi）コミューンのガシャル（Gasharu）生まれ。1994年4月発足の暫定政権で財務大臣を務める。ギテシ・コミューンのキランボ（Kirambo）とニヤガト（Nyagato）で小学校を修了した後、ギタラマ州のシユヨグウェ（Shyogwe）中等学校（1964～67年）、キガリのOfficial School（1967～70年）に進む。ブタレのルワンダ国立大学では、経済社会科学の学士号（1974年）、そして経営修士号を取得（1976年）。1976年11月以降は消費者協同組合Trafiproで働き、1981年末まで財務部長を務める。その後キガリのElectrogazに移り、財務経営部長を務めた。1985年、計画省に入り、国内金融部門を率いた。1991年、Audicoという民間会計コンサルティング企業に入り、1992年まで勤務。1992年にPSDに入党。同年、財務省官房長に任命される。これは大臣に次ぐ役職で、1994年4月6日までその職にあった。1993年、キブエでPSDの執行役員（Executive Secretary）に選ばれた。1994年4月9日、暫定内閣の財務大臣に就任。1994年7月14-15日、ゴマに逃亡。キブエ州のギテシ（Gitesi）およびギシタ（Gishyita）コミューンでの殺戮（ビセセロの虐殺など）に重要な役割を果たす。無期懲役判決。（ICTR）

Ndindiliyimana Augustin (Major-General) or (General)

1943年、ブタレ州ニャルヘンゲリ（Nyaruhengeri）コミューン生まれ。1992年9月2日、国家憲兵隊参謀長に任命される。（ICTR）/ゼロ・ネットワークのメンバー。1992年4月の複数政党制内閣で、北部出身者が軍から排除されたのを受けて、憲兵隊トップに任命される（Melvern [2004: 32-33]）。/1994年3月にColonelからMajor Generalに昇進（Dallaire [2003]）。

Ndungutse François

4月6日直後にキガリで多くの幹部が虐殺された後、残った数少ないPSD指導者。PSDの影響力低下を恐れ、MRNDに接近。ンサビマナ（Nsabimana）を知

事に推す。

Ngango Félicien

PSD 第一副議長。移行国民議会議長、人権団体 ARDHO 副代表。4月7日に家族共々殺害される (Melvern [2004: 147]) 。

Ngarambe Joséph

PSD 幹部。虐殺を逃れる (Prunier [1995: 230])。

Ngeze Hassan

1957年12月25日、ギセニ州ルバヴ (Rubavu) コミューン生まれ。1978年からジャーナリストとして活動。1990年、新聞「カングラ」(”Kangura”)を発行し、編集長となる。CDR の設立メンバー。(ICTR)(Chrétien [1995])

Ngirabatware Augustin

1994年4月発足の暫定政権計画相。MDR-Power 派。

Ngirumpatse Mathieu

1939年、キガリ・ルーラル州タレ (Tare) コミューン生まれ。弁護士の訓練を受ける。1994年にはMRND 総裁を務める。1991年12月31日に成立した初の「複数政党」内閣において法務大臣を務め、1992年5月以降MRNDの事務局長および中央委員であった。それ以前には、ドイツ、エチオピアの大使、大統領執務室外務担当局長、保険会社SONARWAの取締役を務めた。(ICTR) / 法相当時、バゴグウェの虐殺を指示したと報告書で指摘されたが、それを否定。1992~93年には、民兵とともに暴徒化したデモを裏で操ったともいわれる。/ MRND 事務局長。ブタレのマッチ工場 (SORWAL) の理事会に名前を連ねる。/ インテラハムウエの創設者の一人。カンバンダは、インテラハムウエを統制できるのは彼だけだと考えていた (Melvern [2004: 118, 195])。

Ngoga (Abbe)

キベホ (Kibeho) の神父。1994 年 5 月上旬に逮捕され、収監中に RTL M が非難の放送を行う。5 月 31 日に釈放されるが、その直後に殺害された (HRW [1999: 532]) 。

Ngoga Alphonse

元キゲンベ (Kigembe) のブルグメストル、州知事事務所の職員。MRND の支持者。大学生の息子ミチョミザ (Micomyiza) とともにバリケードで活動。

Ngulinzira Boniface

ハビヤリマナ政権期の外相で、アルーシャ協定の交渉を行う。大統領搭乗機墜落事件後すぐに殺害された (Prunier [1995: 230])。

Niyibizi (Corporal)

ESO 所属軍人。病院での虐殺を主導 (AR [2000a: 37])。

Niyirora Daniel

ニャキズのコンセイエ。1994 年 5 月 18 日の治安委員会 (Security committee) でンタガンズワ (Ntaganzwa) 派から職責を果たしていないと非難される。

Niyitegeka Dieudonne

インテラハムウェ執行委員会委員。ンサビマナ (Nsabimana) をブタレ新知事に選出するにあたり、ンケザベラとともに影響力を行使。ただし後に、ンサビマナを何者かよく知らずに選んだが、彼の仕事の内容には失望したと述べる。

Niyitegeka Edward

SORWAL 従業員。ドウサベ (Dusabe) からの指示を受けて行動。

Niyitegeka Eliezer

1952年3月12日キブエ州ギソヴ（Gisovu）コミュニティ、ギタブラ（Gitabura）セクター生まれ。ジャーナリストで、ラジオ・ルワンダのニュース・プレゼンターだった。1994年4月9日、暫定内閣の情報相に就任。MDRの党员で、1991～94年、キブエ州MDR支部長。MDR全国政治局のメンバーだった。キブエ州の虐殺において重要な役割。無期懲役刑。（ICTR）/カレメラ（Kareméra Edouard）とともにキブエの自警団（civil defense）を統括。

Niyonteze Fabien (Lt.)

軍人。ハテゲキマナ（Hategekimana Ildephonse）を支持。ニヤキズ（Nyakizu）のブルグメストルを助け、チャヒンダ（Cyahinda）の虐殺に関与（HRW [1999: 501]）。マタヤゾ（Matyazo）の虐殺に関与（AR [2000a: 43]）。

Niyonzima Faustin

ブタレ州の自警団（Civilian Self-defense）の中心人物。

Nizeyimana Ildephonse (Captain)

ギゼニイ州生まれ。1994年4月当時、ESOで諜報と軍事作戦を担当する副司令官（S2/S3）で、大尉の職位。ESO副司令官という職位に加えて、ハビヤリマナ大統領と同じ地域の出身であることから、アカズの一員と目されていた。ブタレ州での虐殺に関与したとして起訴。未逮捕。（ICTR）/バゴソラの親族といわれる。ガチンジ（Gatsinzi）、ムヴニ（Muvunyi）の2人に対して形式的には部下だが、上官の命令を無視。ガチンジが6人しか付けなかった護衛官を12人も付ける。彼の護衛官は全員ルヘンゲリ出身だった。急進派でトウチを嫌悪。ブタレ市中心部で虐殺を行う（HRW [1999: 501]）。

Nkezabera Ephrem

インテラハムウェ執行委員会委員。ンサビマナ (Nsabimana) をブタレ新知事に選出するにあたり、ニイテゲカとともに影響力を行使。ただし後に、ンサビマナを何者かよく知らずに選んだが、彼の仕事の内容には失望したと述べる。

Nkundabakura Bonaventure

MDR-Power のキゲンベ (Kigembe) コミューン代表。キゲンベでのトウチ虐殺に深く関与。CDR 指導者のムタバールカ (Mutabaruka Bernard) と組んで、PSD のブルグメストルであるカレケジ (Karekezi Symphorien) と争う。

Nkundiye Léonard (Major Lieutenant-Colonel)

1994 年以前に大統領警護隊司令官を務める。ゼロ・ネットワークの中心的人物。

Nkurikiyeyezu Jean-Damascène

ニャキズ・コミューンの会計係。ブルグメストルのンタガンズワ (Ntaganzwa) の謀略で、ガシングワ (Gasingwa) と共に殺害される。

Nkurikiyimfura Boniface

ブタレ州ムヤガ (Muyaga) コミューン、マンバ (Mamba) セクターのコンセイエ (AR [2000a: 85])

Nkurunziza (Corporal)

ブタレの虐殺に深く関与した ESO において、ハテゲキマナ (Hategekimana (Lt.)) の部下。ンゴマ (Ngoma) の暴力行為に荷担 (HRW [1999: 501])

Nkusi Augustin

ムグサ (Mugusa) コミューンの精米所所長。親族や近隣のトウチを守ろうとする。ブルグメストルのルケリブガ (Rukelibuga) の怒りを買う (HRW [1999: 565])

Nkuyubwatsi Innocent

元兵士。Sorwal 従業員。ルヘンゲリ出身。退役後、ニゼイマナ (Nizeyimana) のコネで SORWAL に就職。はじめニゼイマナの家に住んでいたが、その後ンテジマナ (Ntezimana) 教授の家に移る。虐殺中、多くの殺人を犯したが、ンテジマナ教授はその事実を知りながら家に住まわせ、一緒に行動した (HRW [1999: 508]) 。

Nsabimana Déogratias (Colonel)

ルワンダ国軍参謀長であったが、1994 年 4 月 6 日にハビヤリマナ大統領とともに墜落死 (Prunier [1995: 229]) ゼロ・ネットワークのメンバー (Melvern [2004: 32])。 / 1990 年の内戦勃発以来、国外に出たことはなかった。ハビヤリマナがクーデタを恐れ、タンザニアの会議に同行させたと言われる (Reyntjens [1995a: 62])。

Nsabimana Sylvain

1953 年 7 月 29 日、ブタレ州ンバジ (Mbazi) コミューン生まれ。1994 年 4 月 19 日から 6 月 17 日までブタレ州知事。 (ICTR) / 1994 年 4 月 19 日にハビヤリマナ (Habyarimana Jean-Baptiste) に代わってブタレ州知事に就任。直後、虐殺開始。州知事事務所の TOUCH 狩り出しを行う。ケニア人弁護士ギトブ (Gitobu Imanyara) を雇い、African Rights を訴える。PSD 所属。もともと農学の専門家。知事に任命されるまで国政経験はなかった。PSD の全国的な指導者であるンドウングツェ (F. Ndungutse) とバシャミキ (E. Bashamiki) に誘われ、知事に就任した。6 月 17 日に更迭される (HRW [1999: 456, 581])。

Nsabumukunzi Straton (Dr.)

1994 年 4 月に発足した暫定政権農業畜産相。PSD。 / Prunier [1995: 231] では MDR と記載。

Nsanzabahire Mathias

コミュニオン警察官。カバコブワ丘(Kabakobwa Hill)での虐殺に関与(AR[2000a: 47])。

Nsengimana Hormisdas

1954 年 8 月 6 日、ギコンゴロ州チャニカ (Cyanika) コミュニオン生まれ。1994 年 4 月の時点では、神父であり、ブタレ州ニャビシンドウ (Nyabisindu) コミュニオンのニャンザ (Nyanza) にある Christ-Roi College の校長であった。教会、学校でのトウチ排除、虐殺に関与したとして起訴。(ICTR)

Nsengiyaremye Dismas

1992 年 4 月 ~ 93 年 7 月の間、ハビヤリマナ政権で首相を務める。民兵組織化に反対姿勢。

Nsengiyumva Anatole (Lieutenant-Colonel)

1950 年 9 月 4 日、ギセニイ州サティンシ (Satinsyi) コミュニオン生まれ。1993 年 6 月 13 日、ギセニイ州軍事作戦司令官に就任。それ以前、数年にわたり、国軍最高司令部において軍事諜報部門チーフの職務にあった。(ICTR) / ゼロ・ネットワークの中心。ニュンド (Nyundo) 教会の虐殺を含め、ギセニイの虐殺実行に重要な役割。憲兵隊 (gendarmerie) への影響力も大きい。

Nsengiyumva Rafiki Hyacinthe

1994 年 4 月に発足した暫定政権公共事業相。PSD。ガタバジ (Gatabazi Félicien) が暗殺された後、その役職に就任。機会主義者。ニャミランボ (Nyamirambo) に掘られた墓穴に大量の死体を埋める作業の責任者を務めた (Melvern [2004: 190])。

Nsengiyumva Vincent (Monseigneur)

ルワンダのカトリック大司教。長く、MRND 中央委員会メンバーだった。

Nshimiryayo

ニャキズのビジネスマン。MDR 穏健派のトゥワギラムング (Twagiramungu) と関係があったため、治安委員会 (Security Committee) から目を付けられる。ギコンゴロのムブガ (Mubuga) コミューンに逃げ込んだ彼を、ニャキズのブルグメストルであるンタガンズワ (Ntaganzwa) が暗殺しようとしたため、ニャキズとムブガとのコミューン間の紛争となる。

Nshimiyimana Athanase

ブタレ州ンゴマ (Ngoma) コミューン、マタヤゾ (Matyazo) セクターのコンセイエ。タッチの安全を考慮して医療センターに避難させるが、ESO 兵士に虐殺される (AR [2000a: 42-45])。

Nshimyumuremyi Jean- Berchmans

大学副学長。大学内のフトゥ・パワー支持者の代表格。ブタレの自警団 (Civilian self-defense) 会計委員会。

Ntabakuze Aloys (Major Colonel)

1954 年、ギセニイ州カラゴ (Karago) コミューン生まれ。1976 年 7 月 31 日に”B” コマンド証書を、1978 年 8 月 12 日に落下傘部隊証書を取得。1978 年 6 月 28 日には、”A” コマンド証書を取得。同日、ルワンダの高等軍事学校 (Ecole Supérieure Militaire: ESM) を少尉の職位で卒業。1982 年 2 月 5 日、中尉に昇進。1984 年 6 月 30 日、「大統領警護」に特化した安全保障トレーニングコースをアルジェリア民主共和国の Direction centrale de la sécurité militaire で修了。1991 年 8 月 2 日、”A” 落下傘部隊証書を取得。大統領警護隊に勤務した後、1992 年にルワンダ軍パラ・コマンド部隊司令官の地位に昇進。(ICTR) / 国防相の軍内部での補佐役。虐殺のオーガナイザーの一人 (Prunier [1995: 239])。 / ゼロ・

ネットワークのメンバー。彼の傘下に 4 人のフランス国籍の軍人が配属されていた。落下傘部隊、パラ・コマンド部隊に対して、大統領機撃墜は RPF、トゥチの仕業だと殺戮を教唆した (Melvern [2004: 32, 120, 143])。

Ntabomenyeteye Téléphore

ブタレ州ムヤガ (Muyaga) コミューンの前ブルグメストル (AR [2000a: 84])。

Ntaganzwa Ladislas

ブタレ州ニャキズ (Nyakizu) コミューン、ムハンバラ (Muhambara) セクター、ガシャル (Gasharu) セル生まれ。1993 年、ニャキズ・コミュニティのブルグメストルに任命される。また、ニャキズ・コミュニティにおける MRND 支部長。ブタレ州、特にニャキズ・コミュニティの虐殺に関与したとして起訴。未逮捕。(ICTR) / ブタレ州ニャキズ (Nyakizu) のブルグメストル。MDR-Power のメンバー。チャヒンダ (Cyahinda) 教区の虐殺を主導した (AR [1995a])。医療補助の訓練を受け、故郷のチャヒンダ医療センター (Cyahinda health centre) に勤務。複数政党制が導入されて以降、MDR に加入。中学校の時、空手で鍛えた頑強な体。MDR 地方支部長となり、青年部 (Jeunesse Démocrate Républicaine) を組織。支持政党を変えさせるための強制手段 (*kubohoza*) を多用 (HRW [1999])。

Ntagerura André

1950 年 1 月 2 日、チャンゲグ州カレンゲラ (Karengera) コミューン生まれ。1981 年 3 月 ~ 1994 年 7 月まで、閣僚を歴任。最後は、94 年 4 月発足暫定政権の運輸通信相であった。チャンゲグでの虐殺に荷担した容疑で起訴されたが、無罪判決。(ICTR) / MRND 中央委員。エコノミスト。RTLTM 株主。

Ntahobari Maurice

ルワンダ国立大学学長。ニラマシュフコ (Nyiramasuhuko Pauline) の夫、ンタホバリ (Ntahobari Shalom) の父。自身は穏健派といわれる。

Ntahobali Arsène Shalome (Chalome)

1970 年イスラエル生まれ。1994 年当時学生で、MRND の民兵グループインテラハムウェを率いていた。ブタレ州のインテラハムウェに影響力を行使。(ICTR) / ブタレのインテラハムウェのリーダー。母は、閣僚のニラマシュフコ (Nyiramasuhuko Pauline) 父は大学学長のンタホバリ (Ntahobari Maurice) 大学生だが、ドロップアウトしていた。

Ntakirutimana Elizaphan

1924 年、キブエ州ギシタ (Gishyita) コミューン、ンゴマ (Ngoma) セクター生まれ。フトゥ。1939 年にセブンスデー・アドヴェンティスト (Seventh Day Adventist: SDA) 教会のンゴマ校で教育を受け始め、その頃に SDA のメンバーになる。1946 年に小学校を終えると、教会で教師として働く職を得る。1950 年に結婚し、その後 1953 年にルワンダのギトゥエ (Gitwe) 神学校に入るまで、ルワンダやザイールで働く。1956 年に神学校を卒業すると、ンゴマ校に戻って教え、また会計兼代表として働いた。1961 年 8 月 4 日、牧師に叙任される。1962 年頃、ローデシアのソールズベリー校の「指導者」プログラムを受講。その後、会計を学ぶためナイジェリアに赴く。1967 年、西ルワンダ SDA 教会会長に選出され、1970 年までその職を務める。その後、1994 年まで、その職に 3 回選出された。1970~94 年の間、SDA に様々な形で関わる。例えば、ルワンダ・ブルンディ SDA 教会事務局 (1970~75 年) Union director of fundraising and lay activities (1975~80 年) treasurer of the Trans-Africa Division (1985~89 年) president of the South Rwanda Association (1989~93 年) など。1980 年には、SDA の統治体である世界会議に選出されたが、8 ヶ月後に妻の健康不安のために辞任。1994 年 4 月~7 月の間は、西ルワンダ SDA 協会会長であり、その本部はギシタ (Gishyita) コミューンのムゴネロ・コンプレックス (Mugonero Complex) にあった。妻との間には、Ntakirutimana Gérard を含む 8 人の子どもがおり、2002 年段階で 7 人が健在で、4 人が医学の学位を保持している。キブエ州ムゴネロ・

コンプレックスの病院やビセセロでの虐殺に関与したとして起訴。懲役 10 年の判決。(ICTR)

Ntakirutimana Gérard

1958 年、キブエ州ギシタ (Gishyita) コミューン、ンゴマ (Ngoma) セクター生まれ。フトゥ。13 歳の時からンゴマに居住。ブルンディで過ごした後、ルワンダに戻ってギタラムの SDA のギトゥエ (Gitwe) 中等学校で学ぶ。1979 年、政府奨学金を得て、ルワンダ国立大学で学び、1985 年に医学の学位を得る。1989 年 1 月 1 日に結婚し、3 人の子がいる。1990 年初め、ブタレの大学を離れ、教育のためアメリカへ渡る。イリノイ大学で英語を学び、ミズーリ州セントルイスで 1992 年に公衆衛生の修士号を取得。数ヶ月間テキサス州 Laredo で過ごした後、1993 年 3 月にルワンダに帰国。ブタレの大学に戻るつもりだったが、内戦のため難しく、1993 年 4 月からムゴネロ・コンプレックス (Mugonero Complex) の SDA の病院で勤務。その後、1994 年 4 月に出国するまで、病院で勤務医として働く。キブエ州ムゴネロ・コンプレックスの病院やビセセロ (Bisesero) での虐殺に関与したとして起訴。懲役 25 年の判決。(ICTR)

Ntakirutimana Emmanuel

ブタレ州ニャキズのコンセイエ。1994 年 5 月 18 日の治安委員会 (Security committee) で、ンタガンズワ (Ntaganzwa) 派から職責を果たしていないと非難される。

Ntamabyariro Agnès

1994 年 4 月に発足した暫定政権で法相。留任。PL の Power 派。

Ntamageko Gérard (Major)

大統領機撃墜直後にバゴソラらが開催した軍ミーティングの出席者。

Ntambabazi (Major)

軍人。1994 年 5 月半ば、ンゴマ (Ngoma) キャンプの指導役をハテゲキマナ (Lieutenant Hategekimana) から引き継ぐ。

Ntawukuliyayo Jean-Marie-Vianney

ブタレ州ニヤキズ・コミューンの会計係。ブルグメストルのンタガンズワ (Ntaganzwa) の謀略で、ガシングワ (Gasingwa) と共に殺害される。

Ntawukuriryayo Dominique

ブタレ州ギサガラ (Gisagara) の副知事。移動してきた人々や自分の管轄地域に住むトウチをカブエ (Kabuye) に集める。

Ntezimana Laurent

カトリックの指導者 (平信徒)。トウチ保護の主張で知られる。ハビマナ (Habimana Jacques) やニイテゲカ (Niyitegeka Edouard) などの急進派と並んで、ンゴマ (Ngoma) の治安委員会 (Security Committee) メンバーに選出される。

Ntezimana Vincent

物理学教授。北部出身者。ニゼイマナ (Captain Nizeyimana) やヒガニロ (Higaniro) と密な関係。虐殺に際して兵士に指示。ベルギーに逃亡し、そこで逮捕される。

Nteziryayo Alphonse (Lieutenant Colonel)

ブタレ州キバイ (Kibayi) コミューン生まれ。1994 年 6 月 17 日から、ルワンダを逃亡する 7 月中旬まで、ブタレ州知事を務める。それ以前は、ブタレ州における自警団 (Civil Defense) の責任者。(ICTR) / シンバ (Simba Aloys) の下で、ブタレの自警団と軍との調整役を果たす。内務省のカリマンジラ (Kalimanzira) と密接な関係。6 月 20 日、ンサビマナ (Nsabimana) に代わってブタレ州知事に就任 (HRW [1999: 581])。

Ntirivamunda Alphonse

ハビヤリマナ大統領の義理の息子(オイという説もある)。アカズ。前公共事業省道路建設局長。ゼロ・ネットワークの中心。1993年2月21日にキガリで起きたガタバジ(Félicien Gatabazi)暗殺事件に関与(Reyntjens [1995a: 61])。 (Melvern [2004: 28])

Ntivuguruzwa Savien

ブタレ州、ンバジ(Mbazi)コミューンのセル長。5月7日に治安委員会(Security Committee)で、 TOUCHを匿っている疑いがあるとして、フトウの老女ムカンダバヒンゼ(Mukandabalinze Judith)の家を破壊する決定を下す(HRW[1999: 534])。

Ntiwiragabo Aloys (Colonel)

軍謀報部(G2)の長。1994年4月6日には国防相とともにカメルーンへ出張中。虐殺後の軍ミーティングのメンバー (Melvern [2004: 137])。

Ntuyahaga Bernard (Major)

1952年キブエ州マバンザ(Mabanza)コミューン、キピング(Kibingo)生まれ。小中学校修了後、1972年にキガリの士官学校(Ecole des officiers)に入学し、1974年に中尉(second lieutenant)の職位で修了。1994年4月、大尉(major)として参謀本部G4に任命される。94年5月、キガリの第74大隊を指揮。5月末頃、彼はブタレ州ンゴマ(Ngoma)キャンプ司令官に任命される。UNAMIRのベルギー兵殺害事件への関与、部下の兵士の行動に対する責任を問われて起訴されたが、起訴は取り下げられた。(ICTR) / ウィリンヂイマナ首相護衛のベルギー兵10名を軍キャンプに連れて帰るバスを運転。その後、ベルギー兵はキャンプで虐殺された (Melvern [2004: 152])。

Nubaha Laurent (Lieutenant-Colonel)

軍人。キガリの軍キャンプ (camp Kigali) の司令官。

Nyagasaza Narcisse

ブタレ州、ンタヤゾ (Ntyazo) コミューンの前ブルグメストル。トゥチ。虐殺に反対し、ブルンディへの逃亡を試みるが、捕まり殺害される。この地域では、副知事が虐殺を指揮 (HRW [1999: 497]) / コンセイエのビジマナ (Nicodeme Bizimana) が彼の後任となり、その後5月22日にンダヒマナ (Mathieu Ndahimana) に交代 (AR [2000a: 61])。

Nyaminami

ブタレの軍司令官。4月18日、解任直前のハビャリマナ知事とともにチャヒンダ (Cyahinda) 教会を訪問。

Nyamukara Festus

ブタレ州ニヤキズ (Nyakizu) コミューンで、ニヤンタンガ (Nyantanga) 小学校の校長。ンタガンズワ (Ntaganzwa) と深い関係。

Nyandwi Charles

インテラハムウェの創設者の一人 (Melvern [2004: 117])。

Nyilinkwaya Zephania

ブタレ州副知事。PSD。トゥチ虐殺に反対姿勢を取るが、4月21日に殺害される。

Nyiramasuhuko Pauline

1946年ブタレ州ンドラ (Ndora) 生まれ。1994年4月に発足した暫定政権で家族女性問題相。MRND。ウィリンジイマナ (Agathe Uwilingiyimana) 首相率いるハビャリマナ政権下の内閣で同じポストにあった。MRNDのメンバーで、ブ

タレでは有力な政治家であった。(ICTR) / 大学学長の妻。息子のンタホバリ・シャロームとともに、ブタレの虐殺に重要な役割を果たす。シャロームはブタレのインテラハムウエの指導者の一人。学校 (Groupe scolaire) 病院医師のンドウマリヤ (Dr. Jeanne Nduwamariya) や、CDR 指導者の妻レメラ (Siméon Remera) なども殺人ネットワークに参加。ブタレの自警団 (Civilian Self-Defense) 創設にも支援。

Nyungura Emile

PSD の政治家。Félicien Gatabazi のライバルで、彼の暗殺事件に関与 (Reyntjens 1995a: 61)。

Nzabagerageza Charles (Dr.)

ハビヤリマナ大統領のイトコ。前ルヘンゲリ知事。アカズ。知事時代にバゴグウェ (Bagogwe) の虐殺に関与 (AR [1995: 163])。

Nzabirinda Joséph

“Biroto”というニックネームを持つ。1957 年、ブタレ州ンゴマ (Ngoma) コミューン、サヘラ (Sahera) セクター生まれ。ンゴマ・コミュニティで雇用され、青年指導者 (endadreur) として勤務。ブタレ州、特にサヘラ・セクターの虐殺について関与したとして起訴。(ICTR)

Nzabonimana Callixte

ギタラマ州生まれ。1994 年 4 月に発足した暫定政権で青年相を務める。MRND のメンバー。1989 年 1 月 15 日～1991 年 2 月 4 日までの MRND 内閣においては、計画相。1991 年 12 月 31 日に組閣された第 1 次多党制内閣、1992 年 4 月 16 日の第 2 次多党制内閣でも同様の職を務めた。ギタラマ出身の MRND の閣僚として、ギタラマ州のブルグメストルや民兵に影響力を行使。暫定政権においては、閣僚の中で、ンザボニマナ (Nzabonimana Callixte) はギタラマ、ニラマシュフ

コ (Nyiramasuhuko Pauline) はブタレ、ンタゲルラ (Ntagerura André) はチャンググと、担当地域を分担して虐殺の遂行を監視した。未逮捕。(ICTR) / MRND 中央委員。ギタラマ出身でタバ (Taba) などギタラマの虐殺を煽動。 / ギタラマでは、「トウチのウシが食べられるのを待っているぞ」と述べる。また閣議ではトウチは「例外なく殲滅すべき」と繰り返す (Melvern [2004: 196])。

Nzamura Frédéric

PSD 指導者。元農相。大統領機撃墜事件直後に助手のガファランガ (Théoneste Gafaranga) および党員数名と共に殺害される。この結果、PSD は指導部が壊滅状態となる (Prunier [1995: 230])。

Nzaramba François

ブタレ州ニャキズで、もともとンタガンズワ (Ntaganzwa) の支持者だった。しかし、後にンタガンズワから、ムブガのブルグメストルとの関係を非難され、殺害される。ンタガンズワの仕業とされる。

Nzimirinda Albert

ニャキズにあるセクターのコンセイエ。虐殺に反対。

Nzinkiko (Lieutenant-Colonel)

大統領搭乗機撃墜事件後の軍ミーティングのメンバー。ただし、既に現役を引退していた。

Nzirorera Joséph

1950 年、ルヘンゲリ州ムキンゴ (Mukingo) コミューン生まれ。1994 年当時、MRND の全国事務局長 (National-Secretary) かつ中央委員で、1993 年以来その職にあった。下院議員でもあり、MRND のルヘンゲリ代表だった。1994 年 4 月 8 日の暫定政権期には、下院議長を務めた。それ以前、1989 年 1 月 15 日の

MRND 内閣では公共労働相、1990 年 7 月 9 日と 1991 年 2 月 4 日の MRND 内閣では鉱工業・中小企業相を務めた。1991 年以前から MRND の党中央委員だった。アカズ。(ICTR) / 1973 年のクーデタ以来、ハビヤリマナ大統領に仕える。ゼロ・ネットワークの中心。RTLM 株主。

Nzitabakuze

大学教授。自警活動とタッチ狩りに熱心だった。

Nzuwonemeye François-Xavier (Major)

キガリ・ルーラル州生まれ。1994 年 4 月当時、ルワンダ軍偵察部隊 (Reconnaissance Battalion: RECCE) 司令官。1993 年には、第 42 大隊司令官。その後、偵察部隊司令官に任命された。(ICTR) / 大統領機撃墜事件後に開かれた軍ミーティングのメンバー

Rekeraho Emmanuel

ブタレ州在住の元兵士。民兵の指導者。マラバ (Maraba) やフエ (Huye) で虐殺を先導。MDR の地域リーダー。シンバ (Simba Aloys) の側近で自警団の中心人物。

Remera Siméon

ブタレのトゥンバ (Tumba) に住んでいた CDR の指導者。ガタバジ暗殺後、PSD 支持者の脅迫を受けて避難。その後はタッチ虐殺に荷担。ブタレの自警団 (Civilian Self-defense) の中心人物。

Renzaho Juvénal

大統領の政治アドバイザー。撃墜事件で死亡。

Renzaho Tharcisse (Colonel)

1944 年、キブンゴ州キガラマ (Kigarama) コミューン、ガセタ (Gaseta) セクター生まれ。虐殺時には、キガリ市州の知事、キガリ市民間防衛委員会委員長を務め、ブルグメストル、コンセイエ、レスボンサブル、民兵などに影響力を行使。また、ルワンダ軍の大佐でもあり、軍に対して、事実上および法律上の権限を有していた。キガリ市における虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。(ICTR) / 治安当局や地方行政に強い影響力を持ち、武器の調達を行う。1990 年、RPF 侵攻の 4 日後にキガリ知事に任命された (Melvern [2004: 123, 174])

Riza, Iqbal

国連事務総長補佐官。バリルとともに 5 月 22 ~ 27 日にルワンダを訪問、それに基づいて安保理に対してジェノサイドと認める報告書が書かれる。

Rucagu Boniface

ルヘンゲリ選出議員。ゼロ・ネットワークの中心。

Rucogoza Faustin

ハビヤリマナ政権下で情報相。フトゥ。RTLTM の放送を人種差別的と批判した。虐殺開始後すぐに殺害される (Melvern [2004: 158])

Rudakubana Martin

ブタレ州ルハシャ (Ruhashya) の元ブルグメストル。ムグサ (Mugusa) や ISAR 畜産試験場での虐殺を主導 (AR [2000a: 88])

Rugambarara Juvénal

キガリ・ルーラル州のムサ (Musasa) またはタレ (Tare) コミューン生まれ。1994 年 4 月の時点で、キガリ・ルーラル州ビチュンビ (Bicumbi) コミューンのブルグメストルの職にあった。ビチュンビ・コミュニティ医療センターでも働く内科医で、地元では影響力の強い人物だった。1993 年 9 月 16 日、セマンザ

(Semanza Laurent) を引き継いでブルグメストルの職に就いた。セマンザは、彼を政治的に支え、親密な関係を有した。キガリ・ルーラル州における虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。(ICTR)

Ruganera Marc

元財務相。PSD 幹部。殺戮を逃れる (Prunier [1995: 230])

Ruggiu, Georges

1957 年 10 月 12 日、ベルギー、リエージュ州、ヴェルヴィエ (Verviers) 生まれ。ベルギー人。ベルギー社会保障庁 (Belgium Social Security Administration) で働くソーシャル・ワーカーだった。ボランティア・ベースで人々の支援を行っていたが、1990 年、隣に住むルワンダ人学生を通じてルワンダに関心を抱くようになる。1992 年半ばには、学生、政治家、外交官などベルギー在住ルワンダ人を通じて、さらに接触を深めた。NGO グループ、「ルワンダ・ベルギー考察グループ」 ("Groupe de réflexion rwando-belge") の設立者、活動家の一人で、アルシャ協定やルワンダの政治状況について論考を執筆した。1992 年 8 月、友人の結婚式に出席するためルワンダを初めて訪問し、関心をさらに深めた。次第にベルギーにおけるルワンダ・コミュニティの重要人物の一人となり、政治討論会でもしばしば出席した。1993 年初め、彼は RPF に強く反対し、現政権を支持するようになる。1993 年 5 月、彼はハビャリマナ大統領の個人的な招きで何度か面会した。そのなかで、大統領はルワンダと彼の体制のイメージを改善する手段について彼の意見を求めた。1993 年 11 月、ルワンダに移住し、家庭を持ち、MRND のために働く目的でベルギーを離れた。RTLМ に就職したが、これはハビャリマナ大統領がナヒマナ (Nahimana Ferdinand) に口添えしたためだった。1994 年 1 月 6 日から 7 月 14 日の間、RTLМ のジャーナリスト・キャスターとして働いた。懲役 12 年の判決確定。(ICTR)

Rugomboka Jean-Bosco

PSD 支持者。ブタレで 4 月 8 日に殺害された。ンゴマ (Ngoma) のブルグメストルであるカニヤバシ (Kanyabashi Joséph) は、殺害理由について、彼が RPF の T シャツを着ていたからと説明。

Rugwizangoga Etienne

ブタレ州ニヤキズのコンセイエ。虐殺に反対の立場。1994 年 5 月 18 日の治安委員会 (Security committee) で、ンタガンズワ (Ntaganzwa) 派から職責を果たしていないと非難される。その後解任され、6 月 2 日には殴打のうえ拘留される。

Ruhigangoga Laurent

ブタレ州ニヤキズのコンセイエ。1994 年 5 月 18 日の治安委員会 (Security committee) で、ンタガンズワ (Ntaganzwa) 派から職責を果たしていないと非難される。

Ruhigira Enoch

ハビヤリマナ政権期内閣官房長官。キブエ出身。前労働組合事務局長。15 年間ほど MRND 議員を務める。ニックネーム "Rwombo"。キガリの外交、外国人コミュニティへのロビー活動を行う (Melvern [2004: 30])

Ruhumuliza Gaspard

1994 年 4 月に発足した暫定政権で環境観光相。PDC 所属。

Rukelibuga Vincent

ブタレ州ルサティラ (Rusatira) のブルグメストル。PSD 所属。虐殺には熱心だったが、カリマンジラ (Kalimanzira) やニラマシュフコ (Nyiramasuhuko) など MRND や CDR の有力者から妨害を受ける。

Rukundo Emmanuel

1959年、ギタラマ州カブガイ (Kabgayi) で生まれた。1994年4月の時点で、ルヘンゲリ州の従軍神父 (military chaplain) であり、キガリに移送された。急進派として知られ、1973年以来カブガイ神学校でトゥチの同僚と争いを起こしていた。1990年10月にRPFの攻撃があると、ブタレ州ニャキバンダ (Nyakibanda) の神学校にいた彼は急進派のグループを作り、FARのために募金を始めた。1990年頃から、ニャキバンダの神学校がトゥチの牙城だと公言し、フトゥとしてこうした場所にいることは耐えられないと述べた。1991年7月、ンセンギユンヴァ (Thaddé Nsengiyumva) 大司教によって、カブガイ北方のカニャンザ (Kanyanza) 教会の神父に叙任される。この地域はフトゥの人口が多く、急進主義的傾向で知られていた。その後、従軍神父になり、1994年までその職を務めた。ギタラマ州カブガイ教区での虐殺に関与したとして起訴。

Ruremesha Jonathas

ブタレ州、フエ (Huye) のブルグメストル。4月19日のブタレ新知事就任式で、ムゲンジ (J. Mugenzi) が「人民が怒ったら、もう好きなことをして良いのだ」というのを聞いて、もはや暴力を止める試みは無駄と思うようになる。4月20日の治安委員会でジェノサイド容認に傾く (HRW [1999: 461, 467])。

Rusatira Léonidas (Colonel)

1944年5月1日、ルヘンゲリ州ガトネ (Gatone) コミューン生まれ。1994年4月当時、高等軍事学校 (Ecole Supérieure Militaire: ESM) の司令官。ETOでの虐殺に関与したとして起訴されたが、起訴取り下げとなる。(ICTR) / バゴソラのライバル (Melvern) / 1993年12月3日、ダレールに、軍内急進派が不穏な動きをしているとの匿名の手紙を書いたといわれる (Reyntjens [1995a: 58])。

Rusigariye Alfred (Maj.)

警察 (National Police) がブタレ州に展開した際、ハビャラバトゥマ

(Habyarabatura) の部下。ギセニイ出身。虐殺を容認し、上司のハビャラバトゥマではなく、急進派のニゼイマナ (Nizeyimana) やハテゲキマナ (Hategekimana) を支援。ハビャラバトゥマの転勤後、その後任につく。

Rutaganda Georges

1958年11月28日キブエ州ギシタ (Gishyita) コミューン、ンゴマ (Ngoma) 生まれ。ギタラマ州、キブエ州で育ち、ブタレ州、キガリ州で勉学、勤務経験を有する。父の Esdras Mpamo は、キブエ、チャンググ、ブタレ州の知事、在ウガンダ、ドイツのルワンダ大使、ギタラマ州マサンゴ (Masango) コミューンのブルグメストルなどを歴任。ルタガンダ本人にとっては、父がブルグメストルを務めていたギタラマ州マサンゴ・コミュニティが故郷と感ずるという。また父はセブンスデー・アドヴェンティストであり、そのことがルタガンダの宗教的、政治的決定に大きく影響したという。彼は結婚し、3人の子どもを持つ。ルワンダ国立大学から1985年に農業エンジニアリングで学位を得、その後農業エンジニアに任命される。農業エンジニアリングの研究を行い、フエ (Huye) コミューンでモデル農園を経営。大統領令により、この農園の購入を許可される。しかし、モデル農園購入後、地域住民から脅迫を受け、そのためブタレ州から農業省本省へ異動。家族はブタレに残ったものの、ルタガンダはキガリへと移動した。1991年6月、キガリで輸入業を営むビジネスマンとなり、Rutaganda SARL を旗揚げ。Rutaganda SARL は非常に利益の上がる会社だったという。ヨーロッパの食品・飲料企業と独占的な輸入・流通契約をむすび、ルワンダのバー、卸売業者、組織と独占的な供給契約を結んだ。1991年の9月か10月、MRND に加盟した。多くの政党から加盟を誘われたが、この政党が最も経済的、軍事的保護を与えてくれると考えたからだという。これは、ルワンダの実業家として最も重要な点だった。MRND に入党してから、青年部インテラハムウエの全国委員会第2副議長に就任。インテラハムウエの設立に関与し、その指導者と定期的に会った。キガリの ETO での虐殺やギタラマ州の虐殺など、インテラハムウエの行動に深く関与したとして起訴。無期懲役。(ICTR)

Rutaganira Vincent

1944年、キブエ州ギシタ（Gishyita）コミュニオン、ムブガ（Mubuga）生まれ。既婚。10人の子どもあり。自動車修理の教育を2年受ける。また伝統医としての教育を受け、それによって呪術医・薬草販売者の資格を得た。1985年、ムグガ（Muguga）セクターのコンセイエに選出される。その職を1994年7月末まで続けた。ムグガ（Mubuga）教会などキブエ州の虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。審理終了。懲役6年。（ICTR）

Ruzibiza Abdul (Captain)

フランスの予審判事ブリュギエール（Brugière）報告書で証言した元RPF将校。RPF最高司令官（現大統領）のカガメが、「国内のトウチは、排除しなければならない潜在的な敵だった。」と述べ、ハビヤリマナ大統領搭乗機撃墜事件の後にトウチ虐殺が起こることをやむを得ないと見なしていたと証言。かつて、「ネットワーク・コマンド」に属していた。1994年2月26日にキガリに侵入し、RPFシンパの獣医宅で生活した（*Le Monde*, 1994年3月10日）。

Rutanibwoba (Corporal)

ブタレのESOに所属する兵士。4月20日にンゴマ（Ngoma）コミュニオン、マタヤゾ（Matyazo）セクターの医療センターで虐殺を遂行（AR [2000a: 42]）。

Rutaysire Faustin

ブタレ州副知事。ブタレの自警団（Civilian self-defense）会計委員会に所属。

Ruzindana Obed

1962年、キブエ州ギソヴ（Gisovu）コミュニオンの豊かなフトウの家族に生まれる。父のムラカザ（Elie Murakaza）は、ムゴネロ（Mugonero）コミュニオンのブルグメストルを務めていた。家族は地元では有名で尊敬されていた。1986～87

年に親元を離れ、キガリに出て、運輸業と輸入業を開始。4人の運転手を雇い、ビジネスを成功させる。1991年に幼なじみの女性と結婚。夫人の証言によれば、彼女の両親はいずれもタッチであったが、父親のIDカードにはフトゥと記されていた。夫人によれば、IDカードのエスニシティーを「買う」ことは可能だった。1991年、93年に子供が生まれた。家族はレメラ（Remera）に住んでいたが、1994年の内戦再燃の際にムゴネロに戻った。キブエ州での虐殺に重要な役割を果たしたとして起訴。懲役25年の判決。（ICTR）

Ruzindaza Jean-Baptiste

ブタレの裁判所（Tribunal de première instance）代表。ハビヤリマナ元知事を自宅で逮捕。

Rwabukumba Séraphin

ハビヤリマナ大統領夫人のキョウダイ。ゼロ・ネットワークの中心。アカズ。中央銀行総裁を務め、輸出入業にも関わる。

Rwabalinda Ephrem (Lieutenant-Colonel)

軍における危機委員会のメンバー。大統領機撃墜事件後の軍ミーティングに参加。

Rwagafilita Pierre-Célestin (Colonel)

軍人。大統領搭乗機撃墜事件後、バゴソラ大佐とともに「公衆救済委員会」（Comité de Salut Public）を設置し、暫定政府樹立に向けて動く。ハビヤリマナ大統領夫人のキョウダイ（Prunier [1995: 230]）。/ゼロ・ネットワークのメンバー。1992年4月の複数政党制内閣発足後退役（Melvern [2004: 32-33]）。キブンゴの自警団（civil defense）を統括。

Rwamakuba André (Dr.)

1950年、キガリ・ルーラル州ギコモロ（Gikomero）コミュニティ生まれ。物理学を学び、1994年4月発足の暫定内閣では初等中等教育相。暫定内閣のスポークスマンを務め、MDRのフトゥ・パワー派に属す。MDRパワー派執行委員会のメンバーであり、キガリ・ルーラル州ではMDR州委員会（comité préfectoral）のメンバー。初等中等教育相として、地方の行政官に影響力があり、指示を伝えた。また、出身地ギコモロ・コミュニティの自警団（Civil Defense Force）特にインテラハムウェや民兵のリーダーに対して、またブタレ大学病院の民兵に対しても影響力を行使。（ICTR）

Rwamucho Eugène (Dr.)

ブタレのルワンダ国立大学医学部所属。反トウチで有名。5月14日、カンバンダがブタレの大学を訪問した際には、MRND、MDR、PSD、Parti du Renouveau Démocratique（PRD）を代表して演説。

Rwankubito Célestin

ブタレ州ンドラ（Ndora）のブルグメストル。6月20日頃に更迭される。虐殺に熱心でなく、カリマンジラ（Kalimanzira）の怒りを買ったため（HRW [1999: 581]）。

Rwanyonga (Lieutenant)

ブタレ州の大学病院に配置されたESO兵士部隊のトップ（AR [2000a: 38]）。

Rwarakabije Paul (Lieutenant-Colonel)

憲兵隊所属。大統領撃墜事件直後に設立された危機委員会のメンバー。

Rwibajige Sylvestre

PSD幹部。虐殺を逃れる（Prunier [1995: 230]）。

Ryandikayo

ファーストネームはない。1961年頃、キブエ州ギシタ（Gishyita）コミュニティ、ムセニ（Musenyi）セクター生まれ。1994年当時、ギシタ・コミュニティ、ムブガ（Mubuga）セクターにあるレストランのマネージャーだった。現在はコンゴにいと考えられている。キブエ州ギシタ・コミュニティの虐殺に関与したとして起訴。未逮捕。（ICTR）

Sagahutu Innocent

チャンググ州生まれ。1994年4月当時、ルワンダ軍偵察部隊副司令官。当該部隊中隊長。職位は大尉。（ICTR）

Sagatwa Elie (Colonel)

ハビヤリマナ大統領の妻のキョウダイ（イトコとの説も）。ゼロ・ネットワークの中心。アカズ。ハビヤリマナ大統領の個人秘書。飛行機墜落により大統領とともに死亡。/1991年1月22日、RPFがルヘンゲリの刑務所を攻撃した際、部隊司令官のウィホレイエ（Captain Charles Uwihoreye）に囚人を全員殺害するよう大統領指令として命令した（Melvern [2004: 16]）。/大統領警護隊の実質的な最高司令官。ンピラニヤ（Protais Mpiranya）よりも権力が強かった（Reyntjens [1995a: 57]）。

Sebalinda Jean-Baptiste

SORWAL 従業員。会計管理係。ドゥサベ（Dusabe）とともに、「民間自警」計画策定に重要な役割。ブタレの自警団（Civilian self-defense）会計委員会所属。

Sebucocyero Athanase

運輸省高官。ンタガンズワ（Ntaganzwa）の有力な支持者。

Semakuba Félicitée

元憲兵隊員。ンドラ (Ndora) のカブエ丘 (Kabuye hill) で虐殺を先導。妊娠していたが、「マメを投げるように手榴弾を投げた」〔AR[1995b: 34-37], AR[2000a: 78]〕。

Semanza Laurent

1944 年、キガリ・ルーラル州ムササ (Musasa) コミューン生まれ。1993 年にルガンバララ (Juvénal Rugambarara) に職を譲るまで、20 年以上にわたりビチュンビ (Bicumbi) コミューンのブルグメストルを務める。ブルグメストルを退いた後も、MRND の党員に留まる。アルーシャ協定に従って設立される予定だった国民議会の MRND 代表に任命されていた。キガリ・ルーラル州の虐殺に深く関与したとして起訴。審理終了。懲役 25 年。(ICTR) / MRND キガリ・ルーラル支部長。

Semigabo Joséph

ブタレ州ニャキズのコンセイエ。1994 年 5 月 18 日の治安委員会でンタガンズワ派から職責を果たしていないと非難される。

Semwaga Félix

ブタレの商人。自警団 (Civilian civil defense) 州委員会副議長。

Sengegera Etienne

在キンシャサのルワンダ大使。UNAMIR のベルギー兵がハビャリマナ大統領機を狙撃したとの説を流布する (Prunier [1995: 214])。

Serubuga Laurent (Colonel)

アカズ。前 FAR 参謀次長。1973 年にハビャリマナのクーデタを幫助。ゼロ・ネットワークの中心。ンセンギユンヴァ (Colonel Nsengiyumva Anatole) とともに、ギセニイ州で自警団 (civil defense) を統括。 / 1988 年、大統領に近かった

マコヤ大佐 (Colonel Stanislas Mayuya) の暗殺を組織 (Prunier [1995: 87])。 / 1992 年 4 月の複数政党制内閣発足に伴って退役 (Melvern [2004: 33])。

Seromba Athanase

キブエ州ルトウジロ (Rutziro) コミューン生まれ。キブエ州キヴム (Kivumu) コミューン、ニヤンゲ (Nyange) セクターにあるニヤンゲ教会のカトリック神父。Nyange 教会でのトウチ虐殺に関与したとして起訴。

Serugendo Joséph

1953 年 5 月、ギセニイ州サティンシ (Satinsyi) コミューン、ムランビ (Murambi) セクター生まれ。1994 年 4 月当時、a) RTL M の執行理事会 (Comité d'initiative) メンバー。b) RTL M ラジオ局、技術局長。c) ルワンダ情報局 (ORINFOR) 内 ラジオ・ルワンダの技術局長。d) MRND のインテラハムウエ全国委員会委員。インテラハムウエの「並行委員会」(Comité parallèle : キガリのインテラハムウエを統括。CDR の民兵組織インブサムガンビと連携) メンバー。e) キガリ、ニャミランボのバー "Le Terminus" のオーナー。このバーは別名「CDR の家」("Chez les CDR") と呼ばれ、MRND、CDR のメンバーや、その民兵による会議が定期的に行われる場所だった。インテラハムウエ、RTL M の活動に深く関与したとして起訴。(ICTR) / 1992 年 11 月、ナヒマナとともにブリュッセルでラジオ機材を購入。RTL M の中心人物。

Serushago Omar

別名 Omari Faizi。1961 年 4 月 24 日、ギセニイ州ルバヴ (Rubavu) コミューン生まれ。ギセニイ州のインテラハムウエを率いた 5 人の指導者の一人。Damas、Abuba Michel、Thomas Mugiraneza、Michel、Bahati、Gahutu、Hamisi-Pokou (別名 Etranger)、Lionceau、Feruzi Ayabagabo など、有力なインテラハムウエのメンバーに影響力を行使。ギセニイ州でのインテラハムウエの行動を指導したとして起訴。懲役 15 年。(ICTR)

Setako Ephrem

1949年5月ルヘンゲリ州ンクリ(Nkuli)コミューン生まれ。1994年4月当時、ルワンダ国軍の退役大佐であった。退役とはいえ、彼はルワンダの国連軍事監視団に参加するなど、事実上高位の役職にあった。弁護士の教育を受け、国防省行政・法務部でも仕事をしていた。ルヘンゲリとキガリ市での虐殺で重要な役割を果たしたとされる。(ICTR)

Shamukiga Charles

ビジネスマンで、市民権運動家。大統領期撃墜事件直後、キガリで殺害される(Prunier [1995: 230])。

Sibomana Antoine

ブタレ州ンバジ(Mbazi)のブルグメストル。4月18日の時点でもトゥチ、フトゥで構成した自警団でコミューンを防衛。トゥチを攻撃した者を逮捕(自分の兄弟も含む)。4月20日の治安委員会(Security Committee)でジェノサイド容認に傾く。(HRW 1999: 467)。4月25日、サッカースタジアムでの虐殺では主導的役割を果たす(AR [2000a: 81])。

Simba Aloyis (Lieutenant Colonel) or (Major)

1938年2月28日、ギコンゴロ州ムセベヤ(Musebeya)コミューン生まれ。1994年4月には、ルワンダ軍の退役中佐であった。1988年12月に陸軍を退役した後、下院議員に選出され、1989~93年の間議員を務めた。1991年7月5日~1993年9月13日の間、MRNDのギコンゴロ州支部長。1994年5月以降、暫定内閣国防大臣から、ギコンゴロ州およびブタレ州の自警団顧問に任命された。ギコンゴロ州とブタレ州の虐殺で重要な役割。(ICTR)/ハビヤリマナとともに1973年のクーデタに参加した(Melvem [2004: 213])。

Simbakikure Assiel

ブタレ州ブソロ (Busoro) の副知事 (Sous-préfet)、ンタガンズワ (Ntaganzwa) の直接の上役。

Simbikangwa Pascal (Captain)

大統領府勤務。ゼロ・ネットワークの中心。サガトゥワ (Sagatwa) の姻族。1994年4月には公的な役職に就いていなかったが、影響力は強大だった。RTL M の設立、運営に重要な役割を果たし、民兵組織化にも努める。車椅子を利用する身体障害者だったが、中央情報局などに連行される犯罪者に拷問を加えるのを好んだため「拷問人」と呼ばれた (Chrétien [1995])。 / 1993年2月21日にキガリで起きた Félicien Gatabazi (PSD 指導者) 暗殺事件に関与 (Reyntjens [1995a: 61])。

Sindikubwabo Théodore

1994年4月発足の暫定政権で大統領。前下院議長。MRND。小児科医。ブタレ出身。1994年4月中頃、ブタレを訪問し、知事を更迭。ブタレの虐殺を促す。5月18日にはキブエで虐殺を促す。

Twagiramungu Faustin

MDR の指導者。カイバンダの娘と結婚。ガピシ (Gapyisi) とは義兄弟。RPF との交渉促進派で、急進派からは命を狙われる。1994年7月～95年8月に RPF 政権の首相を務める。2003年には大統領選挙に立候補して落選。

Twagirayezu Faustin

ブタレ、カブタレのセル長。兵士を案内し、虐殺を幫助する。中学校教師 (HRW [1999: 552])。

Ukurukiyezu Jean-Damascène (Major)

ギタラマ州に任命された軍人。自警団 (Civil defense) を統括。

Uwilingiyimana Agathe

MDR の政治家。フトゥ。1993 年 7 月から首相。1994 年 4 月 7 日に殺害される。ベルギー兵 10 名に保護されていたが、ベルギー兵も殺害された。

Uwizeye Fidèle

ギタラマ州知事。はじめ虐殺に消極的だった。4 月 12 日に暫定政府がギタラマに移動して以降は武器が流入し、GP やインテラハムウェの行動を抑制できなくなった (Melvern [2004: 195])

Uzanyinzoga Isabelle

バゴソラ (Bagosora) の妻。

Zigiranyirazo Protais

通称 Mr."Z"。1938 年、ギセニイ県ギチエ (Giciye) コミューン生まれ。ギチエは、隣接するカラゴ (Karago) コミューンとともに、ブシロ (Bushiro) を成し、これはハビヤリマナ前大統領とその妻アガト (Agathe Kanziga) の出生地でもある。ジギラニラゾはアガト・カンジガのキョウダイで、したがってハビヤリマナ大統領の義兄弟。1974 ~ 1989 年の間、ルヘンゲリ州の知事を務める。1994 年 4 月当時、ギチエ・コミューンに居住するビジネスマンだった。ハビヤリマナ大統領の統治期、ルワンダの政治経済的権力は、大統領の拡大家族、およびほぼ例外なく北部のギセニイ州、ルヘンゲリ州出身のエリートから構成される狭いサークルのなかで確立されていた。ジギラニラゾは、このグループの有名なメンバーだった。バゴソラ (Colonel Théoneste Bagosora)、ンセンギコンヴァ (Colonel Nsengiyumva)、セタコ (Colonel Ephrem Setako)、アガト、バラヤグウィザ (Jean-Bosco Barayagwiza)、ビクンビ (Raphaël Bikumbi)、ムニヤギシャリ (Bernard Munyagishari)、ンポザンベジ (Marc Mpozambezi)、セバトゥワレ

(Arcade Sebatware)、バンジ(Wellars Banzi) などの有力者と共謀した。(ICTR) / ゼロ・ネットワークの中心。アカズ。ゴリラ密輸とダイアン・フォッシー殺害に関わる (Gordon [1995])。ビジネスマンとしてカナダに渡るが、そこでルワンダ人を脅迫したとして、1993年9月に国外追放処分を受ける。RTLTMの大株主。

第2節 アカズに関する資料

アカズ (*akazu*) とは「小さな家」を意味するルワンダ語だが、ハビヤリマナ政権の中核を占めた少数の有力者を指す隠語でもある。そのメンバーは、ハビヤリマナ政権期に政治的、経済的、軍事的な権力を集中的に保持し、また急進派政党 CDR や急進的メディア RTLTM の設立を工作するなど、1994年4月のジェノサイドの計画や実行においても中心的な役割を果たした。したがって、ハビヤリマナ政権やジェノサイドについて検討するうえで、アカズはきわめて重要なトピックである。具体的に誰がアカズのメンバーと考えられているかを先行研究から整理し、表に示した。ここから、アカズの範囲についての認識が研究者によってまちまちであることがわかる。

人名録と対照すれば明確に理解できるが、アカズのメンバーとして名指しされている人物のバックグラウンドとしては、血縁的な要素と地縁的な要素が混在している。大統領の親族がアカズの中核を構成するが、なかでも妻アガトのキョウダイが重要である。その理由の一つは、歴史的、文化的なものである。ハビヤリマナと妻アガトの出身地である北西部においては、植民地化以前には中央王宮の支配権が及ばず、フトゥのリネッジが自律的な政治共同体を形成していた。そこでは、ウブコンデ (*ubukonde*。複数形は *abakonde*) とよばれる先占リネッジが土地に対する権利を保有し、後からやってきたリネッジ (*ubugererwa*。複数形は *abagererwa*) との間にパトロン・クライアント関係を結んで土地を分配する慣行があった。ハビヤリマナの出身リネッジがクライア

ントの立場であったのに対して、アガトのリネッジはウブコンデで、その出身者にはもともと有力者が多かった（Reyntjens [1985; 1995b]）。

ただし、アカズのメンバーは大統領夫妻の親族だけに限られず、ギセニ州のカラゴ（Karago）およびギチエ（Giciye）の出身者がアカズの中核をなすとの見解もある（Guichaoua [1995: 768]）。虐殺の首謀者といわれるバゴソラなどは、ハビヤリマナ夫妻との直接的血縁関係は指摘されておらず、この地縁グループに属するといえよう。地縁グループとなると、その範囲は相当曖昧になる。表に示した人物以外にも、例えばニゼイマナ（Nizeyimana Ildephonse）はICTRの告訴状でアカズだとされているが、ギセニ州出身という以上にどの程度の血縁的、地縁的关系があるのかは不明である。アカズに関しては、メンバーシップが固定した集団があったと考えるよりも、ハビヤリマナおよびジギラニラゾ、サガトゥワ、ルワブクンバラアガトのキョウダイを中核とする、彼らと個人的な関係で結びついた有力者のグループだと、緩やかに理解しておくのが実態に適している。

表1 先行研究によって異なるアカズの範囲

	Guichaoua [1995: 768]	Prunier [1995]	Chrétien [1995]	Melvern [2004]
Zigiranyirazo Protais Sagatwa Elie Rwabukumba Séraphin Serubuga Laurent Bararengana Séraphin Nzabagerageza Charles Ntirivamunda Alphonse Nzirorera Joséph Mbonabaryi Noël Rwagafilita Pierre-Célestin Bagosora Théoneste Bizimungu Casimir Musabe Pasteur Kabuga Félicien Nkundiye Léonard Nsengiyumva Anatole Simbikangwa Pascal				

(注) は先行研究においてアカズのメンバーとして名前が挙げられた人物。 は曖昧な例として名前が挙げられた人物。

(出所) 筆者作成。

参考文献

- African Rights(AR [2000a] *Lt. Col. Tharcisse Muvunyi: A Rwandese Genocide Commander Living in Britain*. London.
 [2000b] *Jean-Baptiste Gatete: En liberté en Tanzanie?*. London.
 [1995a] *Rwanda: Death, Despair and Defiance* (revised edition) .London.
 [1995b] *Rwanda, Not So Innocent: When Women Become Killers*. London.
 Bertrand, Jordane [2000] *Rwanda, Le piège de l'histoire: L'opposition démocratique avant le génocide (1990-1994)* . Paris: Karthala.
 Chrétien, Jean-Pierre (dir.) [1995] *Rwanda: Les médias du génocide*. Paris: Karthala.
 Dallaire, Roméo[2003] *Shake Hands with the Devil: the Failure of Humanity in Rwanda*. London: Arrow Books.

- Dorsey, Learthen [1994] *Historical Dictionary of Rwanda*, Metuchen: The Scarecrow Press.
- Gasana, James K. [2002] *Rwanda: Du parti-état à l'état-garnison*. Paris: L'Harmattan.
- Gordon, Nick [1995] *Murder in the Mist: Who Killed Diane Fossey*, Hodder & Stoughton.
- Gourevitch, Philip [1998] *We Wish to Inform You that Tomorrow We Will be Killed with Our Families: Stories from Rwanda*. New York: Picador. (柳下毅一郎訳『ジェノサイドの丘 ルワンダ虐殺の隠された真実』WAVE出版(上)(下) 2003年)
- Guichaoua, André (dir.) [1995] *Les crises politiques au Burundi et au Rwanda (1993-1994)*. Paris: Karthala.
- Human Rights Watch (HRW) [1999] *Leave None to Tell the Story: Genocide in Rwanda*. New York.
- Jones, Bruce D. [2001] *Peacemaking in Rwanda: The Dynamics of Failure*. Boulder: Lynne Rienner Publishers.
- Marysse, Stefaan, Tom de Herdt and Elie Ndayambaje [1994] *Rwanda, Appauvrissement et ajustement structurel*. Paris: L'Harmattan.
- Melvorn, Linda [2004] *Conspiracy to Murder: The Rwandan Genocide*. London: Verso.
- Nkunzumwami, Emmanuel [1996] *La tragédie rwandaise: Historique et perspectives*, Paris: L'Harmattan.
- Prunier, Gérard [1995] *The Rwanda Crisis: History of a Genocide. 1959-1994*. London: Hurst.
- Reyntjens, Filip [1995a] *Rwanda: Trois jours qui ont fait basculer l'histoire*. Bruxelles: Institut Anricain – CEDAF, No.16.
- [1995b] “Akazu, <escadrons de la mort> et autres <Réseau Zéro>: Un historique des résistances au changement politique depuis 1990,” in André Guichaoua (dir.) [1995] pp.265-273.
- [1994] *L'Afrique des grands lacs en crise, Rwanda, Burundi: 1988-1994*. Paris: Karthala.
- [1985] *Pouvoir et droit au Rwanda; Droit public et évolution politique, 1916-1973*. Tervuren: Musée Royal de l'Afrique Centrale.
- Verwimp, Philip [2005] “An Economic Profile of Peasant Perpetrators of Genocide: Micro-Level Evidence from Rwanda,” *Journal of Development Economics*, (77), pp.297-323.
- [2003] *Development and Genocide in Rwanda: A Political Economy Analysis of Peasants and Power under the Habyarimana Regime*. Leuven: Katholieke Universiteit Leuven.
- International Criminal Tribunal for Rwanda (ICTR) 公判資料。(<http://65.18.216.88/> を参照)
Le Monde.